

2.2.4 植物、動物の状況

(1) 植物の生育及び植生の状況

植物相及び植生状況は、調査区域及びその周辺を対象に、文献その他の資料により整理しました。

文献その他の資料による調査範囲は、表 2-8 のとおりです。

表 2-8 文献その他の資料による調査範囲（植物）

文献その他の資料	調査範囲
「神奈川県レッドデータブック 2022 植物編」（神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課 令和4年3月）	横浜市瀬谷区、旭区、緑区、大和市で確認された種を対象としました。
「横浜の植物 2020—横浜の植物（2003）補遺—」（横浜植物会 令和2年10月）	横浜市瀬谷区、旭区、緑区、大和市で確認された種を対象としました。
「大和市史 8（上）別編自然」（大和市 平成8年9月）	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「横浜の川と海の生物（第15報・河川編）修正版」（横浜市環境科学研究所 令和2年3月）	調査区域及びその周辺の調査地点で確認された種を対象としました。
「大和市の植物」（大和市教育委員会 平成3年3月）	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「東京都レッドデータブック 2023 本土部」（東京都 令和5年）	調査区域が該当するメッシュで確認された種を対象としました。
「東京都植物誌 2019」（合田勇太郎 令和元年）	東京都町田市で確認された種を対象としました。

① 植物相の概要

調査区域及びその周辺の植物相の概要を、表 2-9 のとおり整理しました。維管束植物（シダ植物及び種子植物）1,762種が確認されています。

表 2-9 文献により確認された植物

分類	主な確認種
シダ植物	ヒカゲノカズラ、クラマゴケ、ミズニラ、スギナ、オオハナワラビ、ゼンマイ、キジノオシダ、ウラジロ、カニクサ、イヌシダ、ワラビ、クジャクシダ、イワガネソウ、イノモトソウ、トラノオシダ、コモチシダ、ヤブソテツ、ベニシダ、タニヘゴ、イノデ、マメヅタ、ノキシノブ等 (176種)
種子植物	裸子植物 イチョウ、モミ、アカマツ、クロマツ、イヌマキ、ヒノキ、サワラ、スギ、コウヨウザン、カイヅカイブキ、イヌガヤ、カヤ (12種)
	被子植物 双子葉植物 離弁花類 ヒツジグサ、サネカズラ、ヒトリシズカ、ドクダミ、ウマノスズクサ、コブシ、ソシンロウバイ、クスノキ、マツモ（広義）、フサザクラ、ヤマエンゴサク、アケビ、アオツツラフジ、ヒイラギナンテン、ニリンソウ、アワブキ、フッキソウ、シャクヤク、モミジバフウ、トサミズキ、カツラ、ユズリハ、チダケサシ、コモチマンネングサ、タコノアシ、オオフサモ、ノブドウ、ヤブマメ、ヒメハギ、ツルグミ、ケンボナシ、ハルニレ、エノキ、ヒメコウゾ、カラムシ、ビワ、クリ、オニグルミ、ハンノキ、アレチウリ、シキザキベゴニア、ツルウメモドキ、カタバミ、エノキグサ、コミカンソウ、カワヤナギ、スマレ、キバナノマツバニンジン、オトギリソウ、タチフウロ、ミソハギ、アカバナ、ユーカリ、ノボタン、ミツバウツギ、キブシ、ヌルデ、イロハモミジ、コクサギ、ニガキ、センダン、カラスノゴマ、セイヨウフウチョウソウ、カラシナ、ヤドリギ、マツグミ、イタドリ、ツメクサ、シロザ、ヨウシュヤマゴボウ、オシロイバナ等 (1,147種)
	単子葉植物 セキショウ、ウキクサ、オモダカ、セキショウモ、エビモ、ヤマノイモ、タコノキ、シュロソウ、チゴユリ、シオデ、カタクリ、エビネ、キショウブ、ノカンゾウ、ニラ、ヤブラン、シュロ、ツユクサ、コナギ、ミョウガ、ミクリ、イヌノヒゲ、クサイ、アオスゲ、カモジグサ等 (427種)
合計	1,762種

② 植生の概要

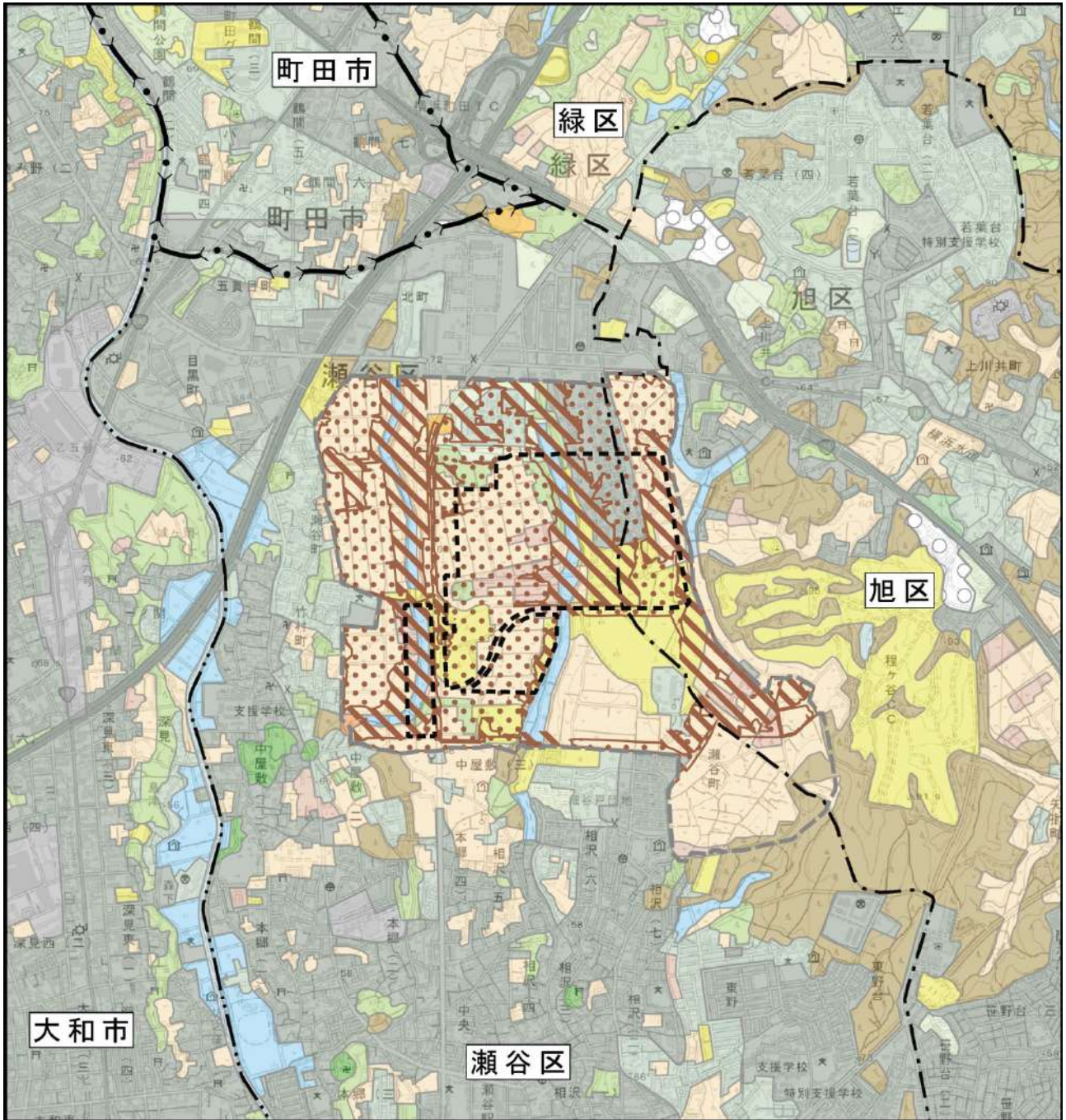
調査区域における現存植生図は図 2-12 に、潜在自然植生図は図 2-13 に示すとおりです。

「潜在自然植生」とは、現存植生に加えられている人間の影響を一切停止した場合に、理論的にその立地に成立すると判定される自然植生を図化したものです。

計画区域及びその周辺の現存植生は、主に畑雑草群落、市街地、緑の多い住宅地の他に、小規模な範囲でクヌギ・コナラ群集、低木群落、ゴルフ場・芝地、水田雑草群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、路傍・空地雑草群落が分布しています。潜在自然植生としては、シラカシ群集・ケヤキ亜群集、シラカシ群集・典型亜群集及びハンノキ群落が成立するとされています。なお、上瀬谷地区内は、土地区画整理事業により盛土及び切土の工事が実施される予定であり、当該範囲の現存植生は改変される計画です（盛土及び切土の範囲は図 2-12参照）。

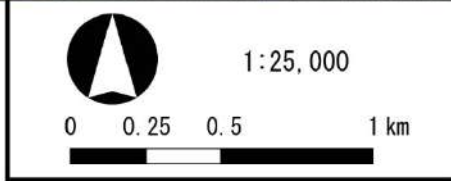
しかし、土地区画整理事業実施区域は、農業振興地区、物流地区、観光・賑わい地区、防災・公園地区等に整備される計画（図 2-21（p. 2-62）参照）であるため、新たに整備される防災・公園地区等では、当該地域の保全対象種の生育・生息地として、適した環境を創出・保全することが計画されています。^{注1}（図 2-22（p. 2-63）参照）

注1：「旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業 環境影響評価事後調査計画書（工事中その2）」（横浜市 令和6年2月）



凡例

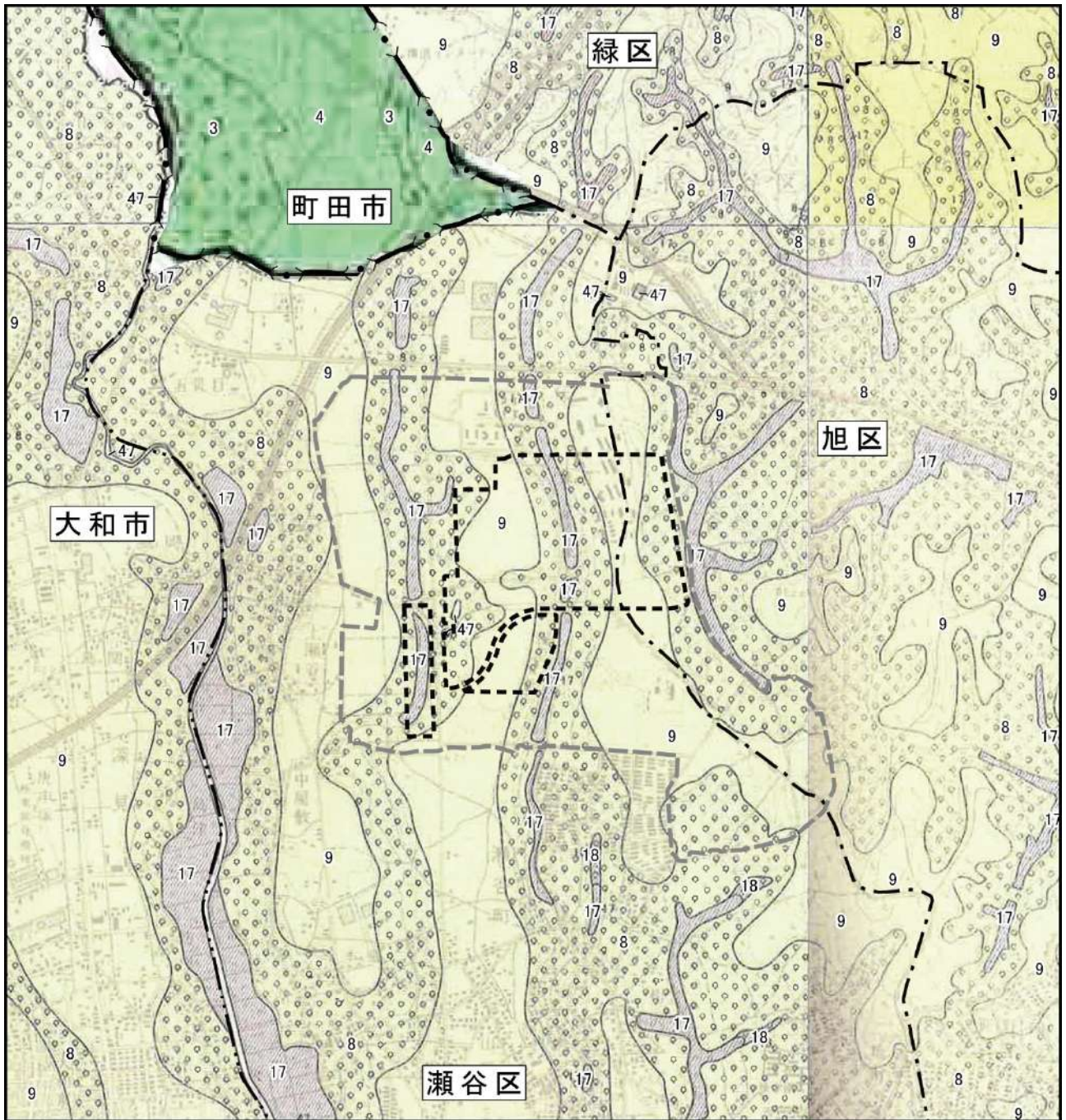
- 計画区域
- 土地区画整理事業実施区域
- 都県界
- 市界
- 区界



- | | | |
|--------------|-----------|-------------------|
| シラカシ群落 | 竹林 | 水田雑草群落 |
| シラカシ屋敷林 | ゴルフ場・芝地 | 市街地 |
| コナラ群落 (VII) | 牧草地 | 緑の多い住宅地 |
| クスギ・コナラ群落 | 路傍・空地雑草群落 | 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等 |
| 低木群落 | 果樹園 | 工場地帯 |
| チガヤ・ススキ群落 | 常緑果樹園 | 造成地 |
| スギ・ヒノキ・サワラ植林 | 畑雑草群落 | 開放水域 |
| | | 盛土 |
| | | 切土 |

資料：「第6回～第7回自然環境保全基礎調査」（環境省 自然環境局 生物多様性センターホームページ 令和8年1月閲覧）
 「旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業 環境影響評価事後調査計画書（工事中その2）」（横浜市 令和6年2月）

図 2-12 現存植生図

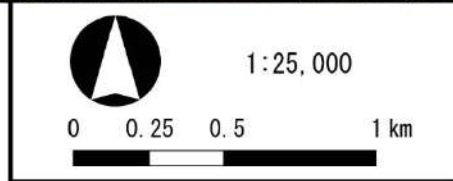


凡例

 計画区域
 土地区画整理事業実施区域

 都県界
 市界
 区界

- | | | | |
|--|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 8 8 3 9 9 4 | <ul style="list-style-type: none"> シラカシ群落・ケヤキ亜群落 シラカシ群落・典型亜群落 | <ul style="list-style-type: none"> 17 18 47 | <ul style="list-style-type: none"> ハンノキ群落 クヌギ-ハンノキ群落 開放水域 |
|--|---|---|--|



資料：「神奈川県潜在自然植生図」（神奈川県教育委員会 昭和50年3月）
 「東京都潜在自然植生図」（東京都環境局ホームページ 令和8年1月閲覧）

図 2-13 潜在自然植生図

③ 植物の重要な種及び重要な群落

植物の重要な種及び重要な群落の選定基準は、表 2-10 のとおりです。

表 2-10(1) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

	選定基準	文献その他の資料	重要な種	重要な群落	
①	「文化財保護法」(昭和25年5月法律第214号)、「神奈川県文化財保護条例」(昭和30年4月神奈川県条例第13号)、「東京都文化財保護条例」(昭和51年3月東京都条例第25号)、「横浜市文化財保護条例」(昭和62年12月横浜市条例53号)、「大和市文化財保護条例」(昭和38年10月大和市条例第25号)及び「町田市文化財保護条例」(昭和52年4月町田市条例第30号)に基づく天然記念物	国特：特別天然記念物 天然：天然記念物 県天：神奈川県天然記念物 都天：東京都天然記念物 横浜天：横浜市天然記念物 大和天：大和市天然記念物 町田天：町田市天然記念物	「国指定文化財等データベース」(文化庁ホームページ令和8年1月閲覧)ほか各自治体ホームページ	○	○
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月法律第75号)に基づく国内希少野生動植物等	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成5年2月政令第17号、令和7年2月12日施行)	○	
③	「第5次レッドリスト(植物・菌類)」(環境省令和7年3月)の掲載種	EX：絶滅・・・我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類・・・絶滅の危機に瀕している種 CR：絶滅危惧ⅠA類・・・ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの EN：絶滅危惧ⅠB類・・・ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの VU：絶滅危惧Ⅱ類・・・絶滅の危険が増大している種 NT：準絶滅危惧・・・現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 DD：情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種 LP：絶滅のおそれのある地域個体群・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの	「第5次レッドリスト(植物・菌類)の公表について」(環境省ホームページ令和8年1月閲覧)	○	

表 2-10(2) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

選定基準		文献その他の資料	重要な種	重要な群落	
④	<p>「神奈川県レッドデータブック 2022 植物編」(神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課令和4年3月)</p>	<p>EX:絶滅・・・すでに絶滅したと考えられる種 準絶滅:絶滅している可能性はあるが、長期間記録が無く、絶滅と判断しない種 EW:野生絶滅・・・飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態のみ存続している種 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類・・・絶滅の危機に瀕している種 CR:絶滅危惧ⅠA類・・・ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高いもの EN:絶滅危惧ⅠB類・・・ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高いもの VU:絶滅危惧Ⅱ類・・・絶滅の危険が増大している種 NT:準絶滅危惧・・・存続基盤が脆弱な種 DD:情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種 LP:絶滅のおそれのある地域個体群・・・特定の地域において孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの 注目:注目種・・・環境省のカテゴリーには判定されないが、生息環境や生態的特徴等により注目に値する種</p>	<p>「神奈川県レッドデータブック 2022 植物編」(神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課令和4年3月)</p>	○	
⑤	<p>「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館平成18年7月)に記載された植物群落(群落複合)</p>	<p>群落複合:モザイク状に成立していたり、成帯構造をもつ等、隣接した植物群落をまとめてとらえることが相応しいと考えられる群落</p>	<p>「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館平成18年7月)</p>		○
⑥	<p>「横浜の植物」(横浜植物会平成15年7月)</p>	<p>Ex-A:かつて横浜市に生育していたことが確認されている種のうち、現在は絶滅したと考えられる種 Ex-B:かつては横浜市全域に広く、あるいは点々と見られたが現在は絶滅したと考えられる種 En-A:横浜が分布域の縁にあたる種や海岸性の種等、分布域や分布量が限られた種のうち、今や絶滅寸前と考えられる種 En-B:かつては横浜市全域に広く、あるいは点々と見られたが、急激に減少して、現在は絶滅寸前と考えられる種 V-A:横浜が分布域の縁にあたる種や海岸性の種等、分布域や分布量が限られた種のうち、減少の著しい種 V-B:かつては横浜市全域に広く、あるいは点々と見られたが、急激に減少している種 R:もともと生育地が限られ、生育数も極端に少ない種や最近になって見出された種等</p>	<p>「横浜の植物」(横浜植物会平成15年7月)</p>	○	

表 2-10(3) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

選定基準		文献その他の資料	重要な種	重要な群落	
⑦	<p>「第2回自然環境保全基礎調査動植物分布図」(環境庁 昭和56年度)、「第3回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書 全国版」(環境庁 昭和63年度)、「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(環境庁 平成12年3月)に掲載された特定植物群落</p>	<p>A: 原生林もしくはそれに近い自然林 B: 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 C: 比較的普通に見られるものであっても、南限・北限・隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 D: 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの E: 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの F: 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であって長期にわたって伐採等の手が入っていないもの G: 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群 H: その他学術上重要な植物群落または個体群</p>	<p>「第2回自然環境保全基礎調査動植物分布図」(環境庁 昭和56年度)、「第3回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書 全国版」(環境庁 昭和63年度)、「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(環境庁 平成12年3月)</p>		○
⑧	<p>「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J, WWF Japan 平成8年4月)に掲載の植物群落</p>	<p>4: 緊急に対策必要 3: 対策必要 2: 破壊の危惧 1: 要注意</p>	<p>「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J, WWF Japan 平成8年4月)</p>		○
⑨	<p>「1/2.5万植生図を基にした植生自然度について」(環境省 平成28年)の1/50,000 植生図に示される自然度10及び9の群落</p>	<p>植生自然度 10: 自然草原(高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区) 植生自然度 9: 自然林(エゾマツトドマツ群集、ブナ群落等、自然植生のうち低木林、高木林の植物社会を形成する地区)</p>	<p>「1/2.5万植生図を基にした植生自然度について」(環境省 平成28年3月)</p>		○

ア. 重要な種

植物の重要な種は、「① 植物相の概要」(p. 2-22 参照)の文献その他の資料で確認された種について、選定基準に基づき学術上又は希少性の観点から選定しました。その結果、重要な種は、表 2-11 のとおり 105 科 404 種が確認されています。

表 2-11(1) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準						
				①	②	③	④	⑤		
1	ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ					En-A		
2	イワヒバ	イワヒバ	イヌカタヒバ			VU				
3	ミズニラ	ミズニラ	ミズニラ			NT	VU	V-B		
4	ハナヤスリ	ハナヤスリ	シチトウハナワラビ				NT			
5			アカハナワラビ					En-A		
6			ナツノハナワラビ					V-B		
7			コヒロハハナヤスリ					NT	V-B	
8			ハマハナヤスリ						V-B	
9			ヒロハハナヤスリ					En-A		
10	ゼンマイ	ゼンマイ	ヤシャゼンマイ					En-A		
11	コケシノブ	コケシノブ	ウチワゴケ					En-A		
12	サンショウモ	サンショウモ	サンショウモ			NT	CR	En-B		
13	ヘゴ	キジノオシダ	オオキジノオ				NT	En-A		
14			キジノオシダ				NT	En-A		
15	ウラボシ	コパノインカグマ	フモトカグマ					En-A		
16		イノモトソウ	クジャクシダ					En-A		
17			ヒメミズワラビ				NT			
18			アマクサシダ					R		
19			オオバノハチジョウシダ					Ex-A		
20			チャセンシダ	コバノヒノキシダ					V-B	
21			ヒメシダ	メニッコウシダ				CR		
22			ヌリワラビ	ヌリワラビ					En-A	
23			シンガシラ	シンガシラ					En-A	
24			メンダ	シケチシダ					En-A	
25				タカオシケチシダ					En-A	
26				ホソバイヌワラビ					V-A	
27				ヒロハイヌワラビ					V-B	
28				ムクゲシケシダ				VU	En-A	
29				ヘラシダ					V-B	
30				オオヒメワラビ					Ex-A	
31				ナチシケシダ					En-B	
32				コヒロハシケシダ					EN	
33				ハクモウイノデ					En-A	
34				オオバミヤマノコギリシダ					EN	
35			オンダ	オオカナワラビ					En-B	
36				オニカナワラビ					En-B	
37				ホソバカナワラビ					En-B	
38				ナンゴクナライシダ					R	
39				シノブカグマ					EN	R
40				ハカタシダ						En-A
41				コバノカナワラビ						En-A
42				メヤブソテツ						En-A
43				イワヘゴ						En-A
44				サイゴクベニシダ						En-A
45				オシダ						En-A
46				ナチクジャク					CR	Ex-A
47				オオクジャクシダ						Ex-A
48		マルバベニシダ							V-B	
49		サクライカグマ							En-A	
50		ギフベニシダ							V-A	
51		キノクニベニシダ							En-A	
52		ワカナシダ						EN	En-A	
53		キヨシミヒメワラビ							En-B	
54		エンシュウベニシダ							V-A	
55		ミヤマクマワラビ							En-A	

表 2-11(2) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準					
				①	②	③	④	⑤	
56	ウラボシ	オンダ	ミヤマイタチシダ					En-A	
57			イワイタチシダ					En-A	
58			イヌイワイタチシダ				NT		
59			ナガバノイタチシダ					En-A	
60			タニヘゴ				EN	En-A	
61			チャボイノデ					En-A	
62			カタイノデ					En-A	
63			オオキヨズミシダ					En-A	
64			イワシロイノデ					En-A	
65			ツヤナシイノデ					En-A	
66			サイゴクイノデ					R	
67			サカゲイノデ					En-A	
68			イノデモドキ					V-B	
69			ヒメカナワラビ					En-B	
70	ウラボシ		マメヅタ					V-B	
71			ヒメノキシノブ						En-A
72	マツ	マツ	モミ					V-A	
73	スイレン	スイレン	コウホネ				CR		
74			ヒツジグサ				EX	Ex-A	
75	コショウ	ドクダミ	ハンゲショウ					V-B	
76		ウマノスズクサ	タマノカンアオイ			VU	VU	V-A	
77	クスノキ	クスノキ	ニッケイ			NT			
78			ダンコウバイ						R
79	オモダカ	サトイモ	コウキクサ					V-A	
80		オモダカ	トウゴクヘラオモダカ			EN	CR		En-B
81			マルバオモダカ			VU	EX		Ex-A
82			ウリカワ						En-B
83			トチカガミ	セキショウモ				EN	En-A
84		ヒルムシロ	エビモ						V-B
85			ヒルムシロ						En-B
86			アイノコイトモ						En-B
87			ヤナギモ						En-B
88			ササバモ					NT	En-A
89			リュウノヒゲモ				NT	VU	En-A
90		ヤマノイモ	ヤマノイモ	タチドコロ					En-A
91				キクバドコロ					
92		ユリ	シュロソウ	シュロソウ				VU	V-A
93	ユリ		カタクリ				VU	En-A	
94			コオニユリ						Ex-A
95			タイワンホトトギス				VU		
96			アマナ					NT	En-B
97	クサスギカズラ		ラン	シラン			NT	NT	En-A
98		エビネ				NT	NT		V-B
99		キンラン				NT	NT		
100		サイハイラン							V-B
101		マヤラン					VU		En-A
102		サガミラン					NT	NT	
103		クマガイソウ					VU	VU	En-B
104		タシロラン					NT		En-A
105		オニノヤガラ							R
106		クロヤツシロラン							R
107		クモキリソウ							Ex-A
108		オオバノトンボソウ							V-B
109				トンボソウ					En-A
110		アヤメ			ヒオウギ				VU
111	ノハナショウブ						EN		Ex-A
112	カキツバタ					NT	EX		
113	アヤメ						EX		
114	クサスギカズラ		キジカクシ				VU	En-A	
115			コバギボウシ						En-B
116			ユキザサ				NT		Ex-A
117			ヤマアマトコロ					NT	
118	イネ	ガマ	ミクリ			NT	NT	En-A	
119			ナガエミクリ			NT	EN		Ex-A

表 2-11(3) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準					
				①	②	③	④	⑤	
120	イネ	ガマ	ヒメミクリ			VU	CR	Ex-A	
121		ホンクサ	ヒロハノイヌノヒゲ				CR(クロヒロ ハノイヌノヒ ゲ)		
122			ホンクサ					En-B	
123			イヌノヒゲ				CR	Ex-A	
124		イグサ	ヒロハノコウガイゼキショウ					V-B	
125			タチコウガイゼキショウ					En-A	
126			ハリコウガイゼキショウ					En-A	
127			ヤマスズメノヒエ					En-A	
128		カヤツリグサ	ウキヤガラ					V-B	
129			ミノボロスゲ					En-A	
130			マツバスゲ				VU	En-B	
131			ミヤマシラスゲ					V-B	
132			オオタマツリスゲ				CR	Ex-A	
133			ホソバヒカゲスゲ					En-A	
134			テキリスゲ					En-A	
135			クジュウツリスゲ				NT	CR	
136			ヌカスゲ					V-A	
137			ピロードスゲ					En-A	
138			カンスゲ					En-A	
139			シバスゲ					V-B	
140			オタルスゲ				VU	En-A	
141			ヒメゴウソ					En-A	
142			タカネマスクサ					En-A	
143			イトアオスゲ					En-A	
144			シラコスゲ					V-B	
145			クサスゲ				VU		
146			コイトスゲ					V-A	
147			センダイスゲ				VU	En-A	
148			タガネソウ					V-B	
149			アゼスゲ					V-B	
150			ツルナシコアゼガヤツリ				VU	En-B	
151			コアゼガヤツリ					V-B	
152			ヒメガヤツリ					EN	
153			オオハリイ					NT	
154			ハリイ					VU	
155			クログワイ					V-B	
156			コツブヌマハリイ				VU	CR	En-A
157			シカクイ					NT	V-B
158			クグテンツキ					EN	
159			クロテンツキ					V-B	
160			アゼテンツキ					VU	En-B
161			メアゼテンツキ				VU		
162			タタラカンガレイ					CR	En-A
163			シズイ					EX	Ex-A
164			フトイ						V-B
165			コマツカサススキ					EN	En-A
166		マツカサススキ						V-B	
167	コシンジュガヤ					EN	Ex-A		
168	イネ	ハネガヤ					EN	En-A	
169		ヤマヌカボ						V-B	
170		セトガヤ						V-B	
171		ケトダシバ				EN(シロウト ダシバ)			
172		ヤマアワ						V-B	
173		ヒメノガリヤス						En-A	
174		ホッスガヤ					NT		
175		ヒメアブラススキ						En-A	
176		オガルカヤ						V-B	
177		キタメヒシバ					NT		
178		カリマタガヤ						En-B	
179		ミズタカモジグサ				VU(ミスダ カモジ)		En-B	
180		スズメガヤ					VU		

表 2-11(4) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準					
				①	②	③	④	⑤	
181	イネ	イネ	ウシノケグサ				VU		
182			ヒメウキガヤ				CR	En-A	
183			カモノハシ				EN	En-A	
184			ミノボロ				CR	En-A	
185			アゼガヤ					En-B	
186			キダチノネズミガヤ				VU	En-A	
187			ヨコハマダケ				EN	En-A	
188			ヌメリグサ					En-B	
189			イヌアワ					V-B	
190			オオアブラススキ					En-B	
191			メガルカヤ					En-B	
192			マコモ					En-B	
193	キンポウゲ	フサザクラ	フサザクラ					R	
194		ケシ	ヤマエンゴサク				NT	En-A	
195			ヤマブキノソウ				VU		
196		ツツラフジ	オオツツラフジ					R	
197		メギ	イカリソウ					En-B	
198		キンポウゲ	イチリンソウ					En-B	
199			アズマイチゲ				NT	En-A	
200			ボタンヅル					V-B	
201			クサボタン					En-B	
202			シロバナハンショウヅル					En-B	
203			オキナグサ				NT	EN	Ex-A
204			ウマノアシガタ						V-B
205	ヤマモガシ		アワブキ	アワブキ				V-B	
206	ユキノシタ	ボタン	ヤマシヤクヤク			NT			
207		マンサク	トサミズキ			NT			
208		ユズリハ	ヒメユズリハ					En-A	
209		ユキノシタ	チダケサシ					V-B	
210			アカショウマ					V-B	
211			イワボタン					En-A	
212		ベンケイソウ	メノマンネングサ				EN		
213		タコノアシ				NT		V-B	
214	アリノトウグサ	アリノトウグサ					En-A		
215	ブドウ	ブドウ	サンカクヅル				En-B		
216	マメ	マメ	クサネム					En-A	
217			ホドイモ						V-B
218			ジャケツイバラ						En-A
219			ノアズキ					VU	Ex-A
220			レンリソウ					EN	Ex-A
221			イヌハギ				NT	VU	Ex-A
222			マキエハギ						V-B
223			タンキリマメ						En-A
224			オオバクサフジ						Ex-A
225			バラ	クロウメモドキ	クロツバラ				CR
226	イラクサ	ナガバヤブマオ							En-A
227		アカソ							En-A
228		ヤナギイチゴ							En-A
229		トキホコリ					NT	VU	
230		ムカゴイラクサ							V-B
231		カテンソウ							V-B
232		イラクサ							V-B
233	バラ	マメザクラ							En-A
234		ヒロハノカワラサイコ					VU	VU	En-A
235		ヤブザクラ					EN	EN	En-A
236		フユイチゴ							V-B
237		クマイチゴ						En-A	
238	ブナ	カバノキ	ハシバミ					En-A	
239			ツノハシバミ						En-A
240	ウリ	ウリ	ゴキヅル				NT	Ex-A	
241	キントラノオ	トウダイグサ	センダイタイゲキ			NT	CR		
242			ヤマアイ					En-A	
243			シラキ					En-A	
244		ミヅハコベ	ミヅハコベ					V-B	

表 2-11(5) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準					
				①	②	③	④	⑤	
245	キントラノオ	ヤナギ	ヤマナラシ					V-B	
246			コゴメヤナギ					En-A	
247			オオキツネヤナギ				EN	V-B	
248		スマレ	ナガバノスマレサイシン					V-A	
249			ヒカゲスマレ				NT	En-A	
250		オトギリソウ	トモエソウ					En-B	
251			ミズオトギリ				EN	Ex-A	
252	フウロソウ	フウロソウ	タチフウロ				EN	En-A	
253	フトモモ	ミソハギ	ミズマツバ			NT	NT	En-B	
254			ミズキカシグサ			NT	EX	Ex-A	
255		アカバナ	オオアカバナ			VU	CR		
256			ウスゲチヨウジタデ				NT		
257			ミズキンバイ				VU	VU	En-A
258	ムクロジ	ウルシ	ヤマウルシ					En-B	
259		ムクロジ	ミツデカエデ					R	
260			ウリカエデ					En-A	
261			カジカエデ					En-A	
262			オニイタヤ					En-A	
263			ウリハダカエデ					Ex-A	
264		ミカン	マツカゼソウ					En-B	
265			フユザンショウ					En-A	
266		アブラナ	アブラナ	コンロンソウ				EN	
267	マルバコンロンソウ							En-A	
268	イヌナズナ							Ex-A	
269	ビャクダン	オオバヤドリギ	マツグミ				NT		
270	ナデシコ	タデ	ナガバノウナギツカミ			NT	EX	Ex-A	
271			シロバナサクラタデ					V-B	
272			シンミズヒキ					V-B	
273			サクラタデ					V-B	
274			ウナギツカミ					En-A	
275			ミゾソバ					CR(ヒカゲミゾソバ)	
276			コギシギシ				NT		R
277		ナデシコ	カワラナデシコ					En-B	
278			ワダソウ				EN	En-A	
279			フシグロ					En-B	
280			フシグロセンノウ					VU	Ex-A
281		ヒユ	ヤナギイノコヅチ				NT	Ex-A	
282		ハマミズナ	ツルナ					V-B	
283	ヤマゴボウ	ヤマゴボウ					En-A		
284	ミズキ	ミズキ	ウリノキ					En-A	
285		アジサイ	ノリウツギ					Ex-A	
286			ガクアジサイ					En-A	
287			ガクウツギ					Ex-A	
288			イワガラミ					V-B	
289	ツツジ	ツリフネソウ	キツリフネ					V-B	
290		サクラソウ	ノジトラノオ			VU	CR	En-A	
291			ヌマトラノオ					VU	V-B
292			クサレダマ					VU	En-B
293		ツバキ	ナツツバキ				EN		
294		ハイノキ	サワフタギ					V-B	
295		マタタビ	サルナシ					V-A	
296		リョウブ	リョウブ					En-A	
297		ツツジ	ウメガサソウ					Ex-A	
298			ネジキ					En-A	
299			ギンリョウソウ					V-B	
300			アセビ					Ex-A	
301			イチヤクソウ					V-B	
302			サツキ					EN	
303			ヤマツツジ					V-B	
304		ナツハゼ					NT	En-A	
305	リンドウ	アカネ	キヌタソウ					V-A	
306			ヤブムグラ			VU	VU	V-B	
307			ホソバノヨツバムグラ				VU	Ex-A	

表 2-11(6) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				①	②	③	④	⑤			
308	リンドウ	アカネ	ハクチョウゲ			VU					
309		リンドウ	リンドウ	リンドウ					V-B		
310			コケリンドウ				VU		En-B		
311			センブリ						En-B		
312		マチン	アイナエ				VU				
313		キョウチクトウ	スズサイコ			NT	VU	En-A			
314	ナス	ヒルガオ	ハマヒルガオ					En-A			
315			ハマネナシカズラ			EN					
316			ネナシカズラ						En-B		
317		ナス	イガホオズキ					En-A			
318	ムラサキ	ムラサキ	ヤマルリソウ					En-B			
319			ルリソウ				CR		En-B		
320	シソ	オオバコ	アワゴケ					V-B			
321			ミズハコベ						V-B		
322			サワトウガラシ					VU	Ex-A		
323			アブノメ						En-B		
324			シソクサ					VU	En-A		
325			キクモ					NT	En-B		
326			ヒシモドキ				EN				
327			イヌノフグリ				NT	VU	Ex-A		
328			ヒメトラノオ					CR	Ex-A		
329			カワヂシャ				NT				
330			ゴマノハグサ	フジウツギ						En-A	
331				ゴマノハグサ				NT	CR	Ex-A	
332				オオヒナノウスツボ						V-B	
333			アゼナ	スズメノトウガラシ						En-B	
334		シソ	カイジンソウ				VU	EX	Ex-A		
335			ジュウニヒトエ							V-B	
336			ツルカコソウ					VU	CR	Ex-A	
337			ルリハッカ					CR			
338			ヤブムラサキ							V-B	
339			クルマバナ							En-A	
340			デンニンソウ							En-A	
341			フトボナギナタコウジュ							En-A	
342			メハジキ							V-B	
343			キセワタ					VU	CR	Ex-A	
344			コシロネ							En-B	
345			ヒメシロネ							En-B	
346			キバナアキギリ							En-A	
347			ミゾコウジュ					NT		V-B	
348			ヒメナミキ						VU	Ex-A	
349			カリガネソウ						VU	Ex-A	
350			ハエドクソウ	ミズホオズキ						En-B	
351			ハマウツボ	シオガマギク					VU	Ex-A	
352				ヒキヨモギ					VU	En-A	
353	クマツヅラ	クマツヅラ						V-B			
354	モチノキ キク	モチノキ	ウメモドキ						En-A		
355		キキョウ	ソバナ							En-A	
356			シデシャジン					EX		Ex-A	
357			サワギキョウ					EN		Ex-A	
358			タニギキョウ							En-A	
359			キキョウ					NT	EN	Ex-A	
360			ミツガシワ	アサザ				NT	EX		
361		キク	ノコギリソウ					EN		Ex-A	
362			ノブキ								Ex-A
363			オクモミジハグマ								En-A
364			ヤマハハコ						VU		En-A
365			カワラハハコ						VU		
366			イヌヨモギ								En-A
367			タテヤマギク					NT			Ex-A
368			ヒメシオン						EN		Ex-A
369			サワシロギク						EN		Ex-A
370			タウコギ								En-B
371			ヒレアザミ						VU		

表 2-11(7) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
372	キク	キク	コヤブタバコ					V-B
373			ヒメガンクビソウ					En-A
374			イソギク					Ex-A
375			キクタニギク			NT		
376			アズマヤマアザミ					En-A
377			タカアザミ				EN	En-A
378			フジバカマ			NT	EX	Ex-A
379			サワヒヨドリ				EN	V-B
380			オグルマ				NT	En-B
381			カセンソウ				VU	En-A
382			ノニガナ				NT	En-A
383			ヤマニガナ					V-B
384			センボンヤリ					V-B
385			モミジガサ					V-B
386			コウモリソウ				VU	Ex-A
387			アキノハハコグサ			EN	CR	En-A
388			ミヤコアザミ				VU	En-A
389			タカオヒゴタイ				VU	En-A
390			キクアザミ				EN	Ex-A
391			タムラソウ					En-B
392			ハチジョウナ				VU	En-A
393			ハバヤマボクチ				EN	En-A
394			オカオグルマ				EN	En-A
395			オナモミ			VU	EN	
396			セリ	セリ	アシタバ			
397	ミシマサイコ					VU	CR	Ex-A
398	ホタルサイコ						CR	Ex-A
399	セントウソウ							V-B
400	セリモドキ						CR	En-A
401	ムカゴニンジン						CR	Ex-A
402	マツムシソウ	ガマズミ	レンブクソウ					Ex-A
403		スイカズラ	オミナエシ					En-B
404			マツムシソウ				VU	Ex-A
計	43 目	105 科	404 種	0 種	0 種	62 種	157 種	351 種

注1：種名及び配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（水情報国土データ管理センター 令和6年10月）に準拠しました。

注2：選定基準は表 2-10（p. 2-26～2-28 参照）に示すとおりです。

イ. 重要な群落等

植物の重要な群落等は、前掲表 2-10 (p. 2-26～2-28 参照) に示す法令や規制等の選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から、天然記念物に指定されている樹木並びに重要な植物群落を選定しました。重要な植物群落は表 2-12 及び図 2-14 に示すとおりです。

なお、前掲表 2-10 (p. 2-26～2-28 参照) に示す「⑤「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成 18 年 7 月)に記載された植物群落(群落複合)」、「⑦「第 2 回自然環境保全基礎調査動植物分布図」(環境庁 昭和 56 年度)、「第 3 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書全国版」(環境庁 昭和 63 年度)、「第 5 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(環境庁 平成 12 年 3 月)に掲載された特定植物群落」及び「⑧「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J, WWF Japan 平成 8 年 4 月)に掲載の植物群落」については、調査区域内では確認されませんでした。

重要な群落として、植生自然度 10 及び 9 に該当する植生についても抽出しました。1/2.5 万植生図の統一凡例に対応する植生自然度は表 2-12 のとおりです。調査区域には、植生自然度 10 に該当する植生はなく、植生自然度 9 に該当する植生として、シラカシ群集が確認されています。

計画区域内には、植物の重要な群落等は確認されませんでした。

表 2-12 重要な植物群落

選定基準	植生区分	1/2.5 万植生図 統一凡例
⑨植生自然度 9 の自然林	ヤブツバキクラス域自然植生	シラカシ群集

注 1 : 選定基準は表 2-10 (p. 2-29～2-35 参照) に示すとおりです。

資料 : 「第 6 回～第 7 回自然環境保全基礎調査」(環境省 自然環境局 生物多様性センターホームページ 令和 8 年 1 月閲覧)

ウ. 巨樹・巨木林等

調査区域における巨樹・巨木林及び名木古木の状況は表 2-13 に、分布図は図 2-14 に示すとおりです。

調査区域には、「第6回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センターホームページ 令和8年1月閲覧）により選定された「巨樹・巨木林」が1件、横浜市の天然記念物及び一般社団法人 日本樹木医会 神奈川県支部により選定された「名木」に指定されている樹木が1件、横浜市の名木古木保存事業における「名木古木」（現在公開されている樹木に限る。）が10件確認されました。

表 2-13 巨樹・巨木林及び名木古木等

行政区分	No.	指定状況 ^{注1}	所在地	樹種	樹齢(年)
瀬谷区	1	巨樹・巨木	本郷一丁目	ケヤキ	540
	2	天然記念物、名木	本郷一丁目	ケヤキ	320
	3	名木古木	本郷三丁目 36-6	カヤ	469
	4		本郷三丁目 36-6	タラヨウ	369
	5		相沢三丁目 24-1	ケヤキ	300
	6		相沢三丁目 24-1	ケヤキ	300
	7		中屋敷一丁目 3-2	ケヤキ	230
	8		中屋敷一丁目 6-2	ケヤキ	234
	9		竹村町 1-14	イチョウ	150
	10		竹村町 1-14	タブノキ	300
	11		竹村町 1-14	シダレザクラ	70
旭区	12			上川井町 846	ケヤキ

注1：指定状況は、以下のとおりです。

巨樹・巨木：「第6回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センターホームページ 令和8年1月閲覧）に位置の記録がある樹木

天然：天然記念物（横浜市指定）に指定された樹木

名木：一般社団法人 日本樹木医会 神奈川県支部により選定された樹木

名木古木：横浜市の名木古木保存事業で指定された樹木

注2：表中のNo. は図 2-14（p. 2-38 参照）に対応しています。

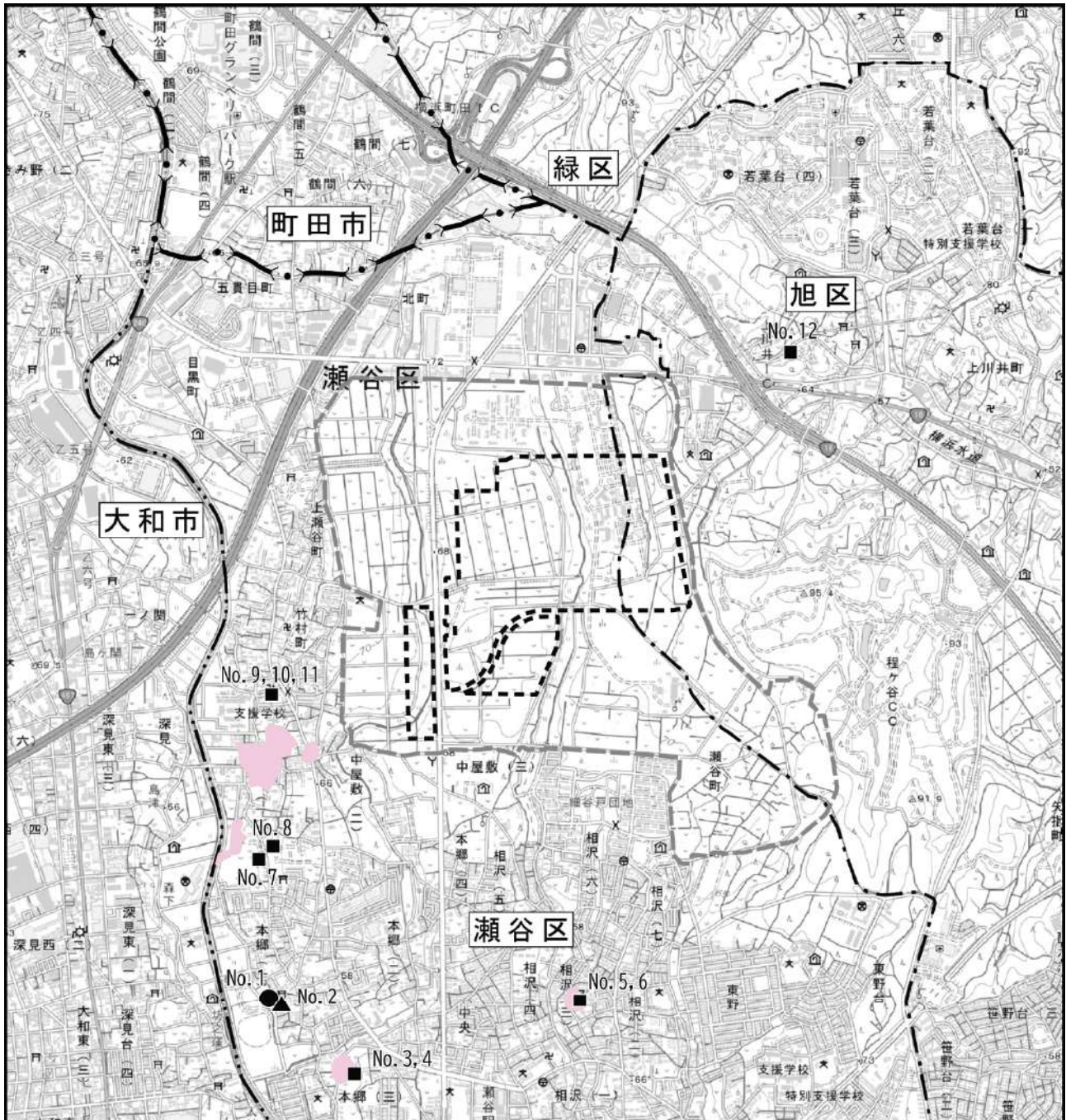
注3：町田市では、「町田市保護樹木」が指定されていますが、調査区域内には存在していません。

資料：「第6回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センターホームページ 令和8年1月閲覧）
「横浜市行政地図情報提供システム（文化財ハマ Site）」（横浜市ホームページ 令和8年1月閲覧）
「かながわの名木100選 樹木所在地一覧表」

（一般社団法人 日本樹木医会 神奈川県支部ホームページ 令和8年1月閲覧）

「名木古木指定樹木一覧」（横浜市ホームページ 令和7年10月1日現在）

町田市都市づくり部公園緑地課へのヒアリング（令和7年7月実施）



凡例

--- 計画区域 --- 土地区画整理事業実施区域

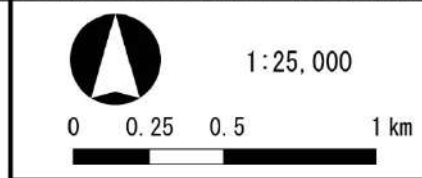
—(・)— 都県界 - - - 市界 - · - · - 区界

■ 自然植生 植生自然度 9

● 巨樹・巨木

▲ 天然記念物 (横浜市指定)

■ 名木古木 (横浜市指定)



注1: 図中の No. は表 2-13 (p. 2-37 参照) に対応しています。

資料: 「横浜市行政地図情報提供システム (文化財ハマ Site)」 (横浜市ホームページ 令和 8 年 1 月閲覧)

「大和市の指定文化財一覧」 (大和市ホームページ 令和 8 年 1 月閲覧)

「名木古木指定樹木一覧」 (横浜市ホームページ 令和 7 年 10 月 1 日現在)

「かながわの名木 100 選 樹木所在地一覧表」 (一般社団法人 日本樹木医会 神奈川県支部ホームページ 令和 8 年 1 月閲覧)

町田市都市づくり部公園緑地課へのヒアリング (令和 7 年 8 月実施)

「第 6 回～第 7 回自然環境保全基礎調査」 (環境省 自然環境局 生物多様性センターホームページ 令和 8 年 1 月閲覧)

図 2-14 重要な植物群落の分布位置図、巨樹・巨木林及び名木古木等分布図

(2) 動物の生息状況

動物の生息状況は、調査区域及びその周辺を対象に、文献その他の資料により整理しました。文献その他の資料による調査範囲は、表 2-14 及び図 2-15 のとおりです。

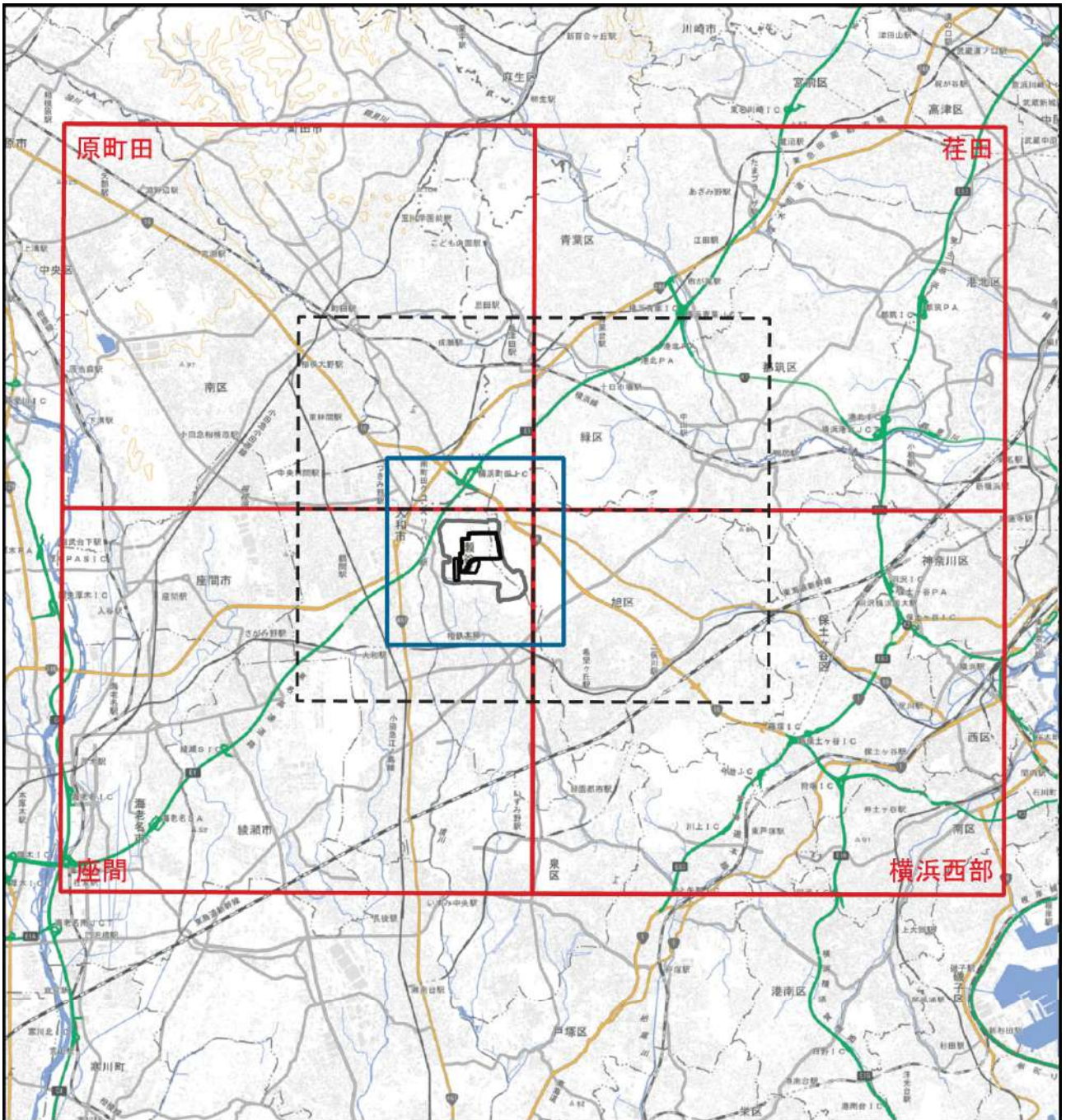
表 2-14 文献その他の資料による調査範囲（動物）

文献その他の資料	調査範囲
「神奈川の鳥 2011-2015 神奈川県鳥類目録Ⅶ」 (日本野鳥の会神奈川支部 令和2年)	横浜市瀬谷区、旭区、緑区、大和市で確認された種を対象としました。
「かながわの鳥と獣」(神奈川県 平成4年3月)	調査区域が含まれる5kmメッシュで確認された種を対象としました。
「かながわの鳥図鑑」(神奈川県 平成4年3月)	横浜市瀬谷区、旭区、緑区、大和市で確認された種を対象としました。
「神奈川県内河川の魚類」 (神奈川県環境科学センター 平成26年3月)	調査区域及びその周辺の調査地点で確認された種を対象としました。
「神奈川県内河川の底生動物Ⅱ」 (神奈川県環境科学センター 平成26年3月)	調査区域及びその周辺の調査地点で確認された種を対象としました。
「横浜の川と海の生物(第16報・河川編) 修正版」 (横浜市環境科学研究所 令和6年3月)	調査区域及びその周辺の調査地点で確認された種を対象としました。
「大和市の脊椎動物」 (大和市教育委員会 平成2年3月)	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「大和市の昆虫」(大和市教育委員会 平成3年3月)	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「大和市史8(上) 別編自然」 (大和市 平成8年9月)	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「東京都レッドデータブック 2023 本土部」 (東京都 令和5年3月)	調査区域の町田市が含まれるメッシュを対象としました。
「1993年(平成5年) 町田の野鳥」 (町田野鳥の会 平成6年10月)	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「1998年度(平成10年度) 町田の野鳥」 (町田野鳥の会 平成12年2月)	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「2003年度(平成15年度) 町田の野鳥3」 (町田野鳥の会 平成17年3月)	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「横浜のホタル生息地(1983年度版)」 (横浜市公害研究所 昭和59年3月)	調査区域及びその周辺の調査地点で確認された種を対象としました。
「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回～第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和8年1月閲覧)	調査区域が含まれる2次メッシュとして、「座間」、「横浜西部」、「荏田」、「原町田」の4メッシュで確認された種を対象としました。






なお、上記以外に「環境アセスメントデータベース(EADAS)」(環境省ホームページ 令和8年1月閲覧)により、調査区域及びその周辺における以下の情報を収集しました。

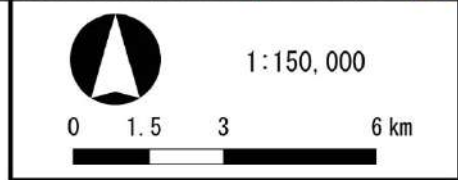
・「環境アセスメントデータベース(EADAS)」により収集した情報

コウモリ洞分布、コウモリ生息情報、イヌワシ・クマタカ生息分布、オオワシ・オジロワシ生息分布、渡りをするタカ類集結地、ガン類・ハクチョウ類の主要な集結地、鳥類の渡りのルート、重要種(イヌワシ、チュウヒ、サンカノゴイ、オオヨシゴイ、オジロワシ、クマタカ、オオワシ、タンチョウ、コウノトリ)の分布状況



凡例

-  計画区域
-  土地区画整理事業実施区域
-  調査区域
-  調査対象2次メッシュ
-  調査対象5kmメッシュ



資料：「自然環境調査 Web-GIS」（環境省 自然環境局 生物多様性センターホームページ 令和8年1月閲覧）

図 2-15 文献その他の資料による調査範囲

① 動物相の概要

動物の生息状況は、当該地域の自然特性を勘案し、調査区域及びその周辺の動物相の概要を表 2-15 のとおり整理しました。哺乳類 13 種、鳥類 157 種、爬虫類 7 種、両生類 9 種、昆虫類等 1,690 種、魚類 102 種、陸産貝類 29 種及び底生動物 103 種が確認されています。

表 2-15(1) 動物相の状況

分類	文献その他の資料名	確認種数	主な確認種
哺乳類	「かながわの鳥と獣」(神奈川県 平成4年3月)	3	アズマモグラ、アブラコウモリ、タヌキ、キツネ、ノイヌ、ノネコ、イタチ、アナグマ、ハクビシン、タイワンリス、アカネズミ、ドブネズミ、ノウサギ (13種)
	「大和市の脊椎動物」(大和市教育委員会 平成2年3月)	4	
	「大和市史 8(上) 別編自然」(大和市 平成8年9月)	11	
	「生物多様性情報システム-基礎調査データベース検索-(第2回、第4回~第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和8年1月閲覧)	10	
	「東京都レッドデータブック 2023 本土部」(東京都 令和5年3月)	3	
鳥類	「神奈川の鳥 2011-2015 神奈川県鳥類目録Ⅶ」(日本野鳥の会神奈川支部 令和2年)	93	カルガモ、キジ、キジバト、イカルチドリ、イソシギ、コサギ、ツミ、トビ、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、チョウゲンボウ、モズ、カケス、オナガ、ハシボソガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ツバメ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ等 (157種)
	「かながわの鳥と獣」(神奈川県 平成4年3月)	39	
	「かながわの鳥図鑑」(神奈川県 平成4年3月)	88	
	「大和市の脊椎動物」(大和市教育委員会 平成2年3月)	38	
	「大和市史 8(上) 別編自然」(大和市 平成8年9月)	88	
	「1993年(平成5年) 町田の野鳥」(町田野鳥の会 平成6年10月)	85	
	「1998年度(平成10年度) 町田の野鳥」(町田野鳥の会 平成12年2月)	77	
	「2003年度(平成15年度) 町田の野鳥3」(町田野鳥の会 平成17年3月)	38	
	「生物多様性情報システム-基礎調査データベース検索-(第2回~第3回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和8年1月閲覧)	127	
	「東京都レッドデータブック 2023 本土部」(東京都 令和5年3月)	21	

表 2-15(2) 動物相の状況

分類	文献その他の資料名	確認種数	主な確認種
爬虫類	「大和市の脊椎動物」(大和市教育局平成2年3月)	4	クサガメ、アカミミガメ、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、ジムグリ (7種)
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第4回～第5回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」 (環境省ホームページ 令和8年1月閲覧)	3	
	「東京都レッドデータブック 2023 本土部」 (東京都 令和5年3月)	2	
両生類	「大和市の脊椎動物」(大和市教育局平成2年3月)	3	アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ナガレタゴガエル、ニホンアカガエル、アカガエル属、トウキョウダルマガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル (9種)
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第4回～第5回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」 (環境省ホームページ 令和8年1月閲覧)	9	
	「東京都レッドデータブック 2023 本土部」 (東京都 令和5年3月)	0	
昆虫類等	「大和市の昆虫」(大和市教育局平成3年3月)	649	ジグモ、ヒラタグモ、ニホンヒメグモ、ジョロウグモ、オニグモ、ウヅキコモリグモ、ササグモ、ネコハエトリ、アジイトトンボ、シオカラトンボ、クツワムシ、アオマツムシ、アブラゼミ、ダイミョウセセリ、オオミドリシジミ、ジャノメチョウ、ウスタビガ本土亜種、コシロシタバ、コハンミョウ、コガムシ、コクワガタ、ウバタマムシ、ゲンジボタル、シロスジカミキリ、アカハナカミキリ、オオスズメバチ等 (1,690種)
	「大和市史8(上)別編自然」(大和市平成8年9月)	1,562	
	「横浜のホタル生息地(1983年度版)」 (横浜市公害研究所 昭和59年3月)	2	
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回、第4回～第5回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」 (環境省ホームページ 令和8年1月閲覧)	158	
	「東京都レッドデータブック 2023 本土部」 (東京都 令和5年3月)	126	
魚類	「神奈川県内河川の魚類」(神奈川県環境科学センター平成26年3月)	12	コイ、ギンブナ、オイカワ、アブラハヤ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、ホトケドジョウ、ナマズ、ミナミメダカ、オオヨシノボリ、クロダハゼ、トウヨシノボリ類、ヌマチチブ、ウキゴリ、ジュズカケハゼ等 (102種)
	「横浜の川と海の生物(第16報・河川編)修正版」 (横浜市環境科学研究所 令和6年3月)	14	
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第4回～第5回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」 (環境省ホームページ 令和8年1月閲覧)	100	
	「東京都レッドデータブック 2023 本土部」 (東京都 令和5年3月)	3	
陸産貝類	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第4回～第5回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」 (環境省ホームページ 令和8年1月閲覧)	29	サドヤマトガイ、ヒダリマキゴマガイ、ナミコギセル、オカチョウジガイ、ナメクジ、チャコウラナメクジ、ニッポンマイマイ、オナジマイマイ等 (29種)
	「東京都レッドデータブック 2023 本土部」 (東京都 令和5年3月)	0	

表 2-15(3) 動物相の状況

分類	文献その他の資料名	確認種数	主な確認種
底生動物	「神奈川県内河川の底生動物Ⅱ」 (神奈川県環境科学センター 平成 26 年 3 月)	4	アメリカツノウズムシ、カワニナ、ヒメモノアラガイ、ピロウドイシビル、フロリダマミズヨコエビ、ミズムシ(甲)、スジエビ、エラブタマダラカゲロウ、オツネントンボ、ハグロトンボ、ギンヤシマ、シオカラトンボ、オオアメンボ、ミズカマキリ、コガタシマトビケラ、コシマゲンゴロウ等 (103 種)
	「横浜の川と海の生物(第 16 報・河川編) 修正版」 (横浜市環境科学研究所 令和 6 年 3 月)	37	
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第 2 回～第 6 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」 (環境省ホームページ 令和 8 年 1 月閲覧)	55	
	「東京都レッドデータブック 2023 本土部」 (東京都 令和 5 年 3 月)	30	

② 動物の重要な種

動物の重要な種は、「① 動物相の概要」の文献その他の資料で確認された種について、表 2-16 に示す法令や規制等の選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から選定しました。

その結果、重要な種は表 2-17 のとおり、哺乳類 2 種、鳥類 70 種、爬虫類 2 種、両生類 7 種、昆虫類等 107 種、魚類 43 種、陸産貝類 3 種及び底生動物 37 種が確認されています。

「環境アセスメントデータベース (EADAS)」(環境省ホームページ 令和 8 年 1 月閲覧)によれば、図 2-16 に示すとおり、調査区域の北端(計画区域外)にコウモリ洞の分布やコウモリ生息情報がありました。図 2-17 に示すとおり、調査区域の北端(計画区域外)を含むメッシュにて、イヌワシの一時滞在の記録がありますが、生息確認や生息推定はされていません。クマタカ、オオワシ、オジロワシの生息分布や渡りをするタカ類集結地、ガン類・ハクチョウ類の主要な集結地はありませんでした。図 2-18 及び図 2-19 に示すとおり、調査区域は、オオハクチョウ、コハクチョウ、ハクチョウ類、マガン、亜種オオヒシクイ、亜種ヒシクイ、ツル類、海ワシ類、アカハラダカの渡りのルートになっていません。

図 2-20 に示すとおり、計画区域を含むメッシュは、オオタカの生息ランクとして「繁殖を確認」に該当します。

表 2-16(1) 動物の重要な種の選定基準

	選定基準	文献その他の資料
①	「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月法律第 214 号)、「神奈川県文化財保護条例」(昭和 30 年 4 月神奈川県条例第 13 号)、「東京都文化保護条例」(昭和 51 年 3 月東京都条例第 25 号)、「横浜市文化財保護条例」(昭和 62 年 12 月横浜市条例 53 号)、「大和市文化財保護条例」(昭和 38 年 10 月大和市条例第 25 号)及び「町田市文化財保護条例」(昭和 52 年 4 月町田市条例第 30 号)に基づく天然記念物	「国指定文化財等データベース」(文化庁ホームページ 令和 8 年 1 月閲覧)ほか各自自治体ホームページ

表 2-16(2) 動物の重要な種の選定基準

選定基準		文献その他の資料
②	<p>「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月法律第75号)に基づく国内希少野生動植物等</p> <p>国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種</p>	<p>「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成5年2月政令第17号、令和7年2月12日施行)</p>
③	<p>「環境省レッドリスト2020」(環境省 令和2年3月)の掲載種</p> <p>EX：絶滅・・・我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類・・・絶滅の危機に瀕している種 CR：絶滅危惧ⅠA類・・・ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの EN：絶滅危惧ⅠB類・・・ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの VU：絶滅危惧Ⅱ類・・・絶滅の危険が増大している種 NT：準絶滅危惧・・・現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 DD：情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種 LP：絶滅のおそれのある地域個体群・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの</p>	<p>「環境省レッドリスト2020の公表について」(環境省ホームページ 令和8年1月閲覧)</p>
④	<p>「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月)</p> <p>EX：絶滅・・・すでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅・・・飼育・栽培下でのみ存続している種 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類・・・絶滅の危機に瀕している種 CR：絶滅危惧ⅠA類・・・ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの EN：絶滅危惧ⅠB類・・・ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高いもの VU：絶滅危惧Ⅱ類・・・絶滅の危険が増大している種 NT：準絶滅危惧・・・現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 DD：情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種 LP：地域個体群・・・地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群</p> <p>減少：減少種・・・かつては県内に広く分布していたと考えられるもののうち、生息地あるいは生息個体数が著しく減少しているもの 希少：希少種・・・生息地が狭域であるなど生息環境が脆弱なもののうち、現在は個体数をとくに減少させていないが、生息地での環境悪化によっては絶滅が危惧されるもの 要注：要注種・・・前回、減少種または希少種と判定され、かつては広く分布していたのに、生息地または生息個体数が明らかに減少傾向にある種 注目：注目種・・・生息環境が特殊なものうち、県内における衰退はめだたないが、環境悪化が生じた際には絶滅が危惧されるもの 不明：不明種・・・過去に不確実な記録だけが残されているもの</p>	<p>「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月)</p>

表 2-17(1) 文献その他の資料による動物の重要な種（哺乳類）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	ネコ	イヌ	キツネ				NT
2		イタチ	イタチ				NT
計	1目	2科	2種	0種	0種	0種	2種

注1：種名及び配列は原則として、「種の多様性調査（動物分布調査）対象種一覧」（環境省 平成14年）に準拠しました。

注2：選定基準は表 2-16（p. 2-43～2-44 参照）に示すとおりです。

表 2-17(2) 文献その他の資料による動物の重要な種（鳥類1）

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	
1	カモ	カモ	アカツクシガモ			DD		
2			オシドリ			DD	希少 ^a 、減少 ^b	
3			トモエガモ			VU	希少 ^b	
4			シマアジ				希少 ^b	
5	キジ	キジ	ヤマドリ				VU ^{a,b}	
6			ウズラ			VU	VU ^b	
7	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			NT	VU ^a	
8	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ				減少 ^a	
9	カッコウ	カッコウ	カッコウ				VU ^a	
10	ハト	ハト	アオバト				注目 ^{a,b}	
11	ツル	クイナ	クイナ				VU ^b	
12			ヒクイナ			NT	CR+EN ^a	
13	チドリ	チドリ	タゲリ				VU ^b	
14			ダイゼン				減少 ^b	
15			イカルチドリ				NT ^a 、注目 ^b	
16			コチドリ				注目 ^a	
17		タマシギ	タマシギ			VU	CR+EN ^a 、希少 ^b	
18		シギ	シギ	ハマシギ			NT	VU ^b
19				ヤマシギ				希少 ^b
20				タシギ				注目 ^b
21				イソシギ				希少 ^a 、注目 ^b
22				クサシギ				NT ^b
23	キアシシギ						VU ^b	
24	カモメ	コアジサシ		国際	VU	CR+EN ^a		
25	ペリカン	サギ	ヨシゴイ			NT	VU ^a	
26			ミゾゴイ			VU	CR+EN ^a	
27			ササゴイ				VU ^a	
28			チュウサギ			NT		
29	タカ	タカ	ツミ				VU ^a 、希少 ^b	
30			ハイタカ			NT	DD ^a 、希少 ^b	
31			オオタカ			NT	VU ^a 、希少 ^b	
32			サシバ			VU	CR+EN ^a	
33			ノスリ				VU ^a 、希少 ^b	
34	フクロウ	フクロウ	アオバズク				VU ^a	
35			オオコノハズク				CR+EN ^a 、希少 ^b	
36			フクロウ				NT ^a	
37	ブッポウソウ	ブッポウソウ			EN	CR+EN ^a		
38	カワセミ	アカショウビン				VU ^a		
39	ハヤブサ	ハヤブサ		国内	VU	CR+EN ^a 、希少 ^b		

表 2-17(3) 文献その他の資料による動物の重要な種（鳥類2）

No.	目和名	科和名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
40	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ			VU	VU ^a
41		カササギヒタキ	サンコウチョウ				VU ^a
42		モズ	チゴモズ			CR	CR+EN ^a
43			モズ				減少 ^a
44		シジュウカラ	コガラ				VU ^a 、NT ^b
45		ヒバリ	ヒバリ				減少 ^a
46		ツバメ	ツバメ				減少 ^a
47			コシアカツバメ				減少 ^a
48		ウグイス	ヤブサメ				NT ^a
49		ムシクイ	センダイムシクイ				NT ^a
50			エゾムシクイ				NT ^a
51			メボソムシクイ				VU ^a
52		ヨシキリ	オオヨシキリ				VU ^a
53		センニュウ	オオセッカ		国内	EN	
54		セッカ	セッカ				減少 ^{a,b}
55		キクイタダキ	キクイタダキ				希少 ^a
56		ツグミ	トラツグミ				減少 ^a
57			クロツグミ				VU ^a
58			アカハラ				減少 ^a
59		ヒタキ	コサメビタキ				CR+EN ^a
60			オオルリ				NT ^a
61			キビタキ				減少 ^a
62			ルリビタキ				VU ^a
63		カワガラス	カワガラス				減少 ^{a,b}
64		セキレイ	セグロセキレイ				減少 ^a
65			ビンズイ				VU ^a
66		アトリ	カワラヒワ				減少 ^a
67		ホオジロ	ホオアカ				CR+EN ^a
68			アオジ				VU ^a
69			クロジ				CR+EN ^a 、減少 ^b
70	オオジュリン					VU ^b	
計	14 目	35 科	70 種	0 種	3 種	20 種	67 種

注1：種名及び配列は原則として、「日本鳥類目録改訂第8版」（日本鳥学会 令和6年9月）に準拠しました。

注2：選定基準は表 2-16 (p.2-43~2-44 参照) に示すとおりです。

注3：④「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月）において、鳥類は、繁殖期または非繁殖期ごとにカテゴリーが設定されています。繁殖期及び非繁殖期の区分は以下のとおりです。

a：繁殖期、b：非繁殖期

表 2-17(4) 文献その他の資料による動物の重要な種（爬虫類）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	有鱗	トカゲ	ヒガニホントカゲ				要注
2		ナミヘビ	アオダイショウ				要注
計	1 目	2 科	2 種	0 種	0 種	0 種	2 種

注1：種名及び配列は原則として、「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（日本爬虫両棲類学会 令和7年4月）に準拠しました。

注2：選定基準は表 2-16 (p.2-43~2-44 参照) に示すとおりです。

表 2-17(5) 文献その他の資料による動物の重要な種（両生類）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル				要注
2		アカガエル	ナガレタゴガエル				VU
3			ニホンアカガエル				VU
4			ツチガエル				要注
5		アオガエル	トウキョウダルマガエル			NT	VU
6			シュレーゲルアオガエル				要注
7			モリアオガエル				要注
計	1目	3科	7種	0種	0種	1種	7種

注1：種名及び配列は原則として、「日本産爬虫両生類標準名リスト」（日本爬虫両棲類学会 令和7年4月）に準拠しました。

注2：選定基準は表 2-16（p. 2-43～2-44 参照）に示すとおりです。

表 2-17(6) 文献その他の資料による動物の重要な種（昆虫類等1）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	クモ	カネコトタテグモ	カネコトタテグモ			NT	
2	トンボ（蜻蛉）	アオイトトンボ	ホソミオツネントンボ				要注
3			オツネントンボ				VU
4		イトトンボ	キイトンボ				EN
5			モートンイトトンボ			NT	EN
6			クロイトトンボ				要注
7			セスジイトトンボ				要注
8			オオイトトンボ				CR
9		モノサシトンボ	モノサシトンボ				NT
10		カワトンボ	ハグロトンボ				要注
11			ニホンカワトンボ				NT
12		ヤンマ	コシボソヤンマ				要注
13			カトリヤンマ				NT
14			サラサヤンマ				EN
15		サナエトンボ	ヤマサナエ				要注
16			キイロサナエ			NT	CR
17			アオサナエ				CR
18			ホンサナエ				VU
19			コサナエ				EN
20		ムカシヤンマ	ムカシヤンマ				VU
21		エゾトンボ	コヤマトンボ				NT
22			タカネトンボ				要注
23		トンボ	コフキトンボ				要注
24			ハラビロトンボ				要注
25			シオヤトンボ				要注
26			チョウトンボ				EN
27			キトンボ				EX
28			ナツアカネ				要注
29			ムタテアカネ				要注
30			マイコアカネ				DD
31			ヒメアカネ				要注
32			ミヤマアカネ				NT
33			リスアカネ				要注
34		バッタ（直翅）	クツワムシ	クツワムシ			
35	キリギリス		オナガササキリ				要注

表 2-17(7) 文献その他の資料による動物の重要な種（昆虫類等2）

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	
36	バッタ（直翅）	キリギリス	ヒガシキリギリス				要注	
37		ケラ	ケラ				要注	
38		マツムシ	マツムシ				要注	
39		コオロギ	コガタコオロギ				NT	
40		バッタ	ショウリョウバッタモドキ				要注	
41			イナゴモドキ				NT	
42	カメムシ（半翅）	セミ	ハルゼミ				要注	
43		アメンボ	オオアメンボ				NT	
44		コオイムシ	コオイムシ			NT	EN	
45			タガメ		国内	VU	EX	
46	ヘビトンボ	センブリ	ヤマトセンブリ			DD		
47	チョウ（鱗翅）	ミノガ	オオミノガ				VU	
48		セセリチョウ	アオバセセリ本土亜種					要注
49			ホソバセセリ					VU
50			ギンイチモンジセセリ				NT	NT
51			ミヤマチャバネセセリ					要注
52			オオチャバネセセリ					VU
53			シジミチョウ	カラスシジミ				
54		ミドリシジミ						NT
55		ウラムシジジミ						希少
56		シルビアシジミ					EN	CR
57		タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン				VU	EN
58			オオウラギンスジヒョウモン					NT
59			スミナガシ本土亜種					要注
60			ウラギンヒョウモン					VU
61			アサマイチモンジ					VU
62			クモガタヒョウモン					EN
63			オオミスジ					CR
64			ホシミスジ東北・中部地方亜種					EN
65		オオムラサキ					NT	NT
66		アゲハチョウ	ギフチョウ		県天		VU	EN
67		シロチョウ	ツマグロキチョウ				EN	EX
68			スジボソヤマキチョウ					NT
69		ヒトリガ	キハダカノコ					DD
70			ヤネホソバ					NT
71		ヤガ	コシロシタバ					NT
72		ハエ（双翅）	ハナアブ	ケブカハチモドキハナアブ				注目
73		コウチュウ（鞘翅）	オサムシ	クロヒメヒョウタンゴムシ				NT
74	ヒロムネナガゴムシ						NT	
75	ハンミョウ		ホソハンミョウ				VU	CR+EN
76	ゲンゴロウ		ゲンゴロウ		国内		VU	EX
77	コツブゲンゴロウ		コツブゲンゴロウ					VU
78	ガムシ		コガムシ				DD	NT
79			ガムシ					NT
80	クワガタムシ		ヒラタクワガタ本土亜種					VU
81			ミヤマクワガタ					要注
82	タマムシ		ウバタマムシ					NT
83			タマムシ					要注

表 2-17(8) 文献その他の資料による動物の重要な種（昆虫類等3）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
84	コウチュウ（鞘翅）	コメツキムシ	ウバタマコメツキ				NT
85		ジョウカイボン	キイロジョウカイ				希少
86		ホタル	ヘイケボタル				NT
87			スジグロボタル				NT
88		カミキリムシ	ヒゲナガモモプトカミキリ				NT
89			シロスジカミキリ				要注
90			アカアシオオアオカミキリ				CR+EN
91			ミドリカミキリ				NT
92			キイロトラカミキリ				要注
93			ナカバヤシモモプトカミキリ				VU
94			ムネアカクロハナカミキリ				NT
95			イタヤカミキリ				VU
96			ケブカヒラタカミキリ				VU
97			アオキクスイカミキリ			CR	EX
98			ネジロカミキリ				NT
99			ヨツボシカミキリ			EN	CR+EN
100			アサカミキリ			VU	CR+EN
101			マルクビケマダラカミキリ				NT
102		トラフカミキリ				要注	
103		ハムシ	コルリクビボソハムシ				VU
104	ハチ（膜翅）	ハバチ	ヒダクチナガハバチ			DD	
105			クチナガハバチ			DD	DD
106		コマユバチ	ウマノオバチ			NT	VU
107		スズメバチ	モンズズメバチ			DD	
計	9目	44科	107種	1種	2種	25種	101種

注1：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（水情報国土データ管理センター 令和6年10月）に準拠しました。

注2：選定基準は表 2-16（p. 2-43～2-44 参照）に示すとおりです。

表 2-17(9) 文献その他の資料による動物の重要な種（魚類）

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類			VU	EN	
2	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ			EN		
-	コイ	コイ	コイ				(DD) ^{注3}	
-			ゲンゴロウブナ			(EN) ^{注4}		
3			キンブナ			VU	EN	
4			ヤリタナゴ			NT	EX	
5			ワタカ			CR		
6			ハス			VU		
7			アブラハヤ				NT	
8			タカハヤ				EN	
9			マルタ				VU	
10			ウグイ				NT	
11			ホンモロコ			CR		
12			ゼゼラ			VU		
13			カマツカ				NT	
14			ツチフキ			EN		
15			ニゴイ				VU	
-				スゴモロコ			(VU) ^{注5}	
16		ドジョウ	ドジョウ			NT		
17			シマドジョウ種群				NT	
18		フクドジョウ	ホトケドジョウ			EN	EN	
19	ナマズ	ギギ	ギバチ			VU	CR	
20		ナマズ	ナマズ				注目	
21		アカザ	アカザ			VU	CR	
22	サケ	サケ	ニッコウイワナ			DD		
23			サクラマス（ヤマメ）			NT	CR	
24			サツキマス（アマゴ）			NT	CR	
25	ダツ	メダカ	ミナミメダカ			VU	CR	
26		サヨリ	クルメサヨリ			NT		
27	トゲウオ	ヨウジウオ	イッセンヨウジ				注目	
28			テングヨウジ				注目	
29	ボラ	ボラ	メナダ				DD	
30	スズキ	カジカ	カマキリ			VU		
31			カジカ			NT	VU	
32		タイ	キチヌ				DD	
33		カワアナゴ	カワアナゴ				EN	
34			チチブモドキ				DD	
35		ハゼ	ハゼ	ミミズハゼ				DD
36				トビハゼ			NT	EN
37				ボウズハゼ				NT
38				ゴクラクハゼ				NT
39				オオヨシノボリ				NT
40				ルリヨシノボリ				NT
41				クロヨシノボリ				NT
42				チクゼンハゼ				VU
43		ジュズカケハゼ				VU	DD	
計	9目	17科	43種	0種	0種	23種	32種	

注1：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和6年度生物リスト」（国土交通省 河川環境データベース 令和6年10月）に準拠しました。

注2：選定基準は表 2-16（p. 2-43～2-44 参照）に示すとおりです。

注3：コイは野生型、飼育型、型不明、改良品種型があり、野生型のみが重要な種に該当しますが、文献から型が判別できなかったことから、括弧を付けた表記とし、重要な種には計上しないこととしました。

注4：ゲンゴロウブナは琵琶湖水系固有種であり、移入種である可能性が高いことから、括弧を付けた表記とし、重要な種には計上しないこととしました。

注5：スゴモロコは琵琶湖水系固有種であり、移入種である可能性が高いことから、括弧を付けた表記とし、重要な種には計上しないこととしました。

表 2-17(10) 文献その他の資料による動物の重要な種（陸産貝類）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	新生腹足	ヤマタニシ	サドヤマトガイ			NT	
2	汎有肺	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ			DD	
3			コウフオカモノアラガイ			VU	
計	2目	2科	3種	0種	0種	3種	0種

注1：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和6年度生物リスト」（国土交通省 河川環境データベース 令和6年10月）及び「野生生物目録 無脊椎動物Ⅲ」（環境庁 平成10年）に準拠しました。

注2：「原色日本陸産貝類図鑑」（保育社 昭和57年）に記載の種を対象としました。

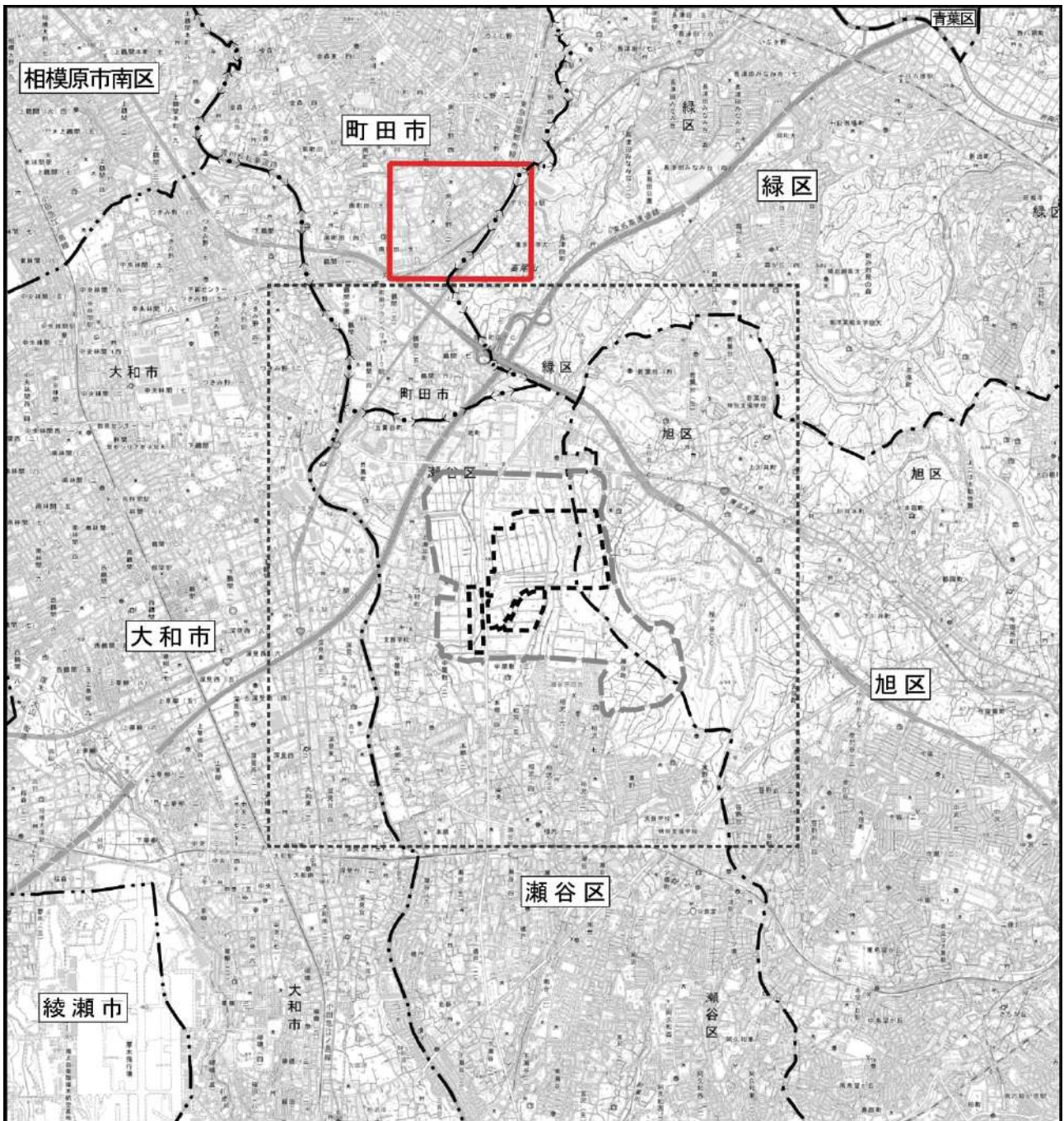
注3：選定基準は表 2-16 (p.2-43～2-44 参照) に示すとおりです。

表 2-17(11) 文献その他の資料による動物の重要な種（底生生物）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	トンボ（蜻蛉）	アオイトトンボ	ホソミオツネントンボ				要注
2			オツネントンボ				VU
3		イトトンボ	キイトトンボ				EN
4			モートンイトトンボ			NT	EN
5			クロイトトンボ				要注
6			セスジイトトンボ				要注
7			オオイトトンボ				CR
8		モノサシトンボ	モノサシトンボ				NT
9		カワトンボ	ハグロトンボ				要注
10			ニホンカワトンボ				NT
11		ヤンマ	コシボソヤンマ				要注
12			カトリヤンマ				NT
13			サラサヤンマ				EN
14		サナエトンボ	ヤマサナエ				要注
15			キイロサナエ			NT	CR
16			アオサナエ				CR
17			ホンサナエ				VU
18			コサナエ				EN
19		ムカシヤンマ	ムカシヤンマ				VU
20		エゾトンボ	コヤマトンボ				NT
21			タカネトンボ				要注
22		トンボ	コフキトンボ				要注
23			ハラビロトンボ				要注
24			シオヤトンボ				要注
25			チョウトンボ				EN
26			キトンボ				EX
27			ナツアカネ				要注
28			マユタテアカネ				要注
29			マイコアカネ				DD
30			ヒメアカネ				要注
31			ミヤマアカネ				NT
32			リスアカネ				要注
33	カメムシ（半翅）	アメンボ	オオアメンボ				NT
34		コオイムシ	コオイムシ			NT	EN
35	タガメ				国内	VU	EX
36	コウチュウ（鞘翅）	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ		国内	VU	EX
37		ガムシ	ガムシ			NT	CR
計	3目	13科	37種	0種	2種	6種	37種

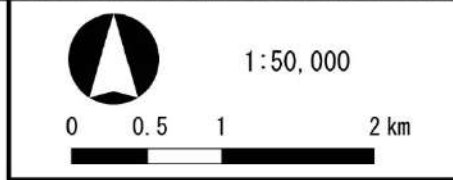
注1：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和6年度生物リスト」（国土交通省 河川環境データベース 令和6年10月）に準拠しました。

注2：選定基準は表 2-16（p.2-43～2-44 参照）に示すとおりです。



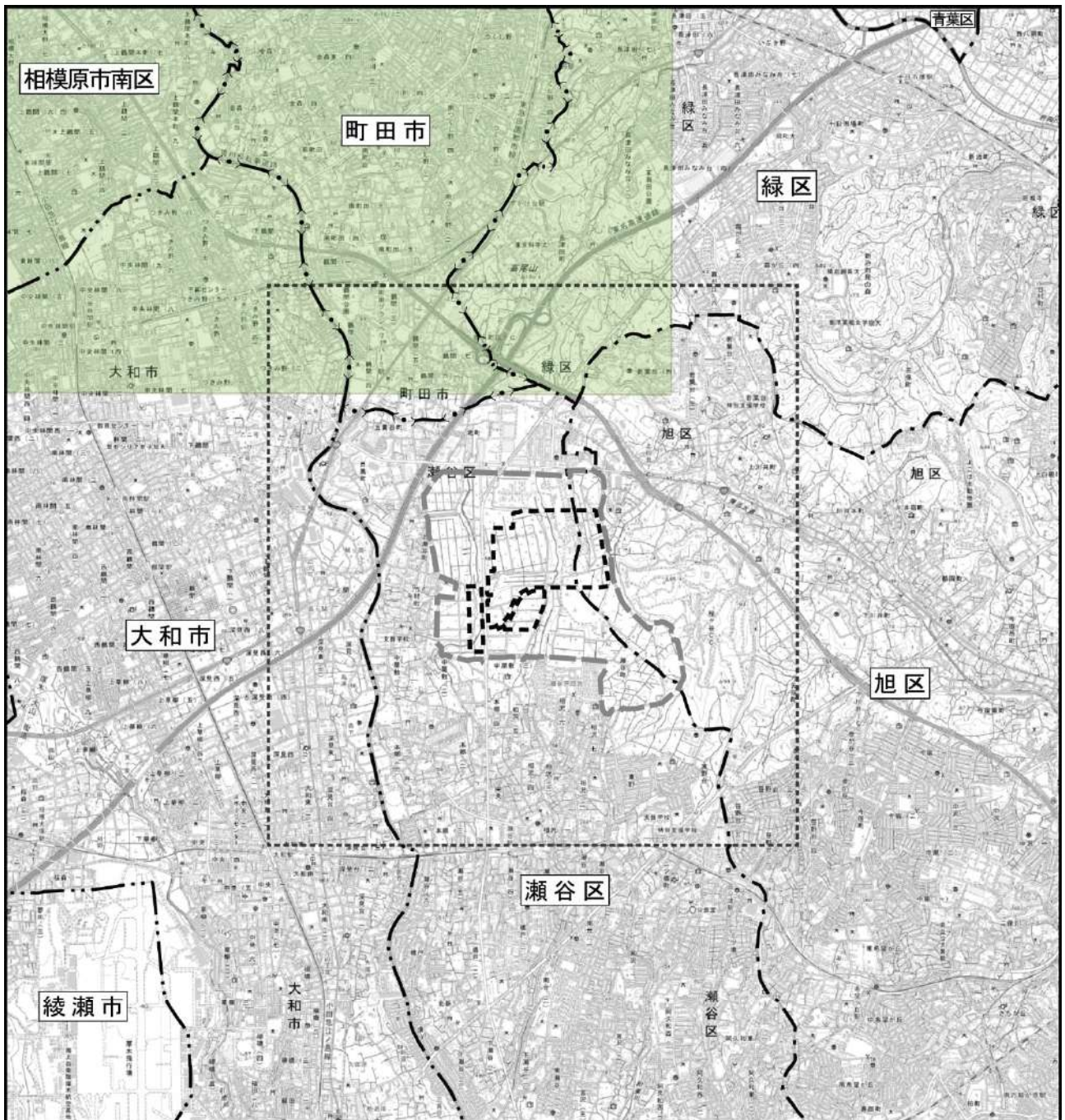
凡 例

- 計画区域 土地区画整理事業実施区域
- 都県界 市界 区界
- 調査区域
- コウモリ生息情報



資料：「環境アセスメントデータベース（EADAS）」（環境省ホームページ 令和8年1月閲覧）

図 2-16 コウモリ洞の分布やコウモリ生息情報



凡例

- 計画区域
 土地区画整理事業実施区域
- 都県界
 市界
 区界
- 調査区域
- イヌワシ生息分布（一時滞在）



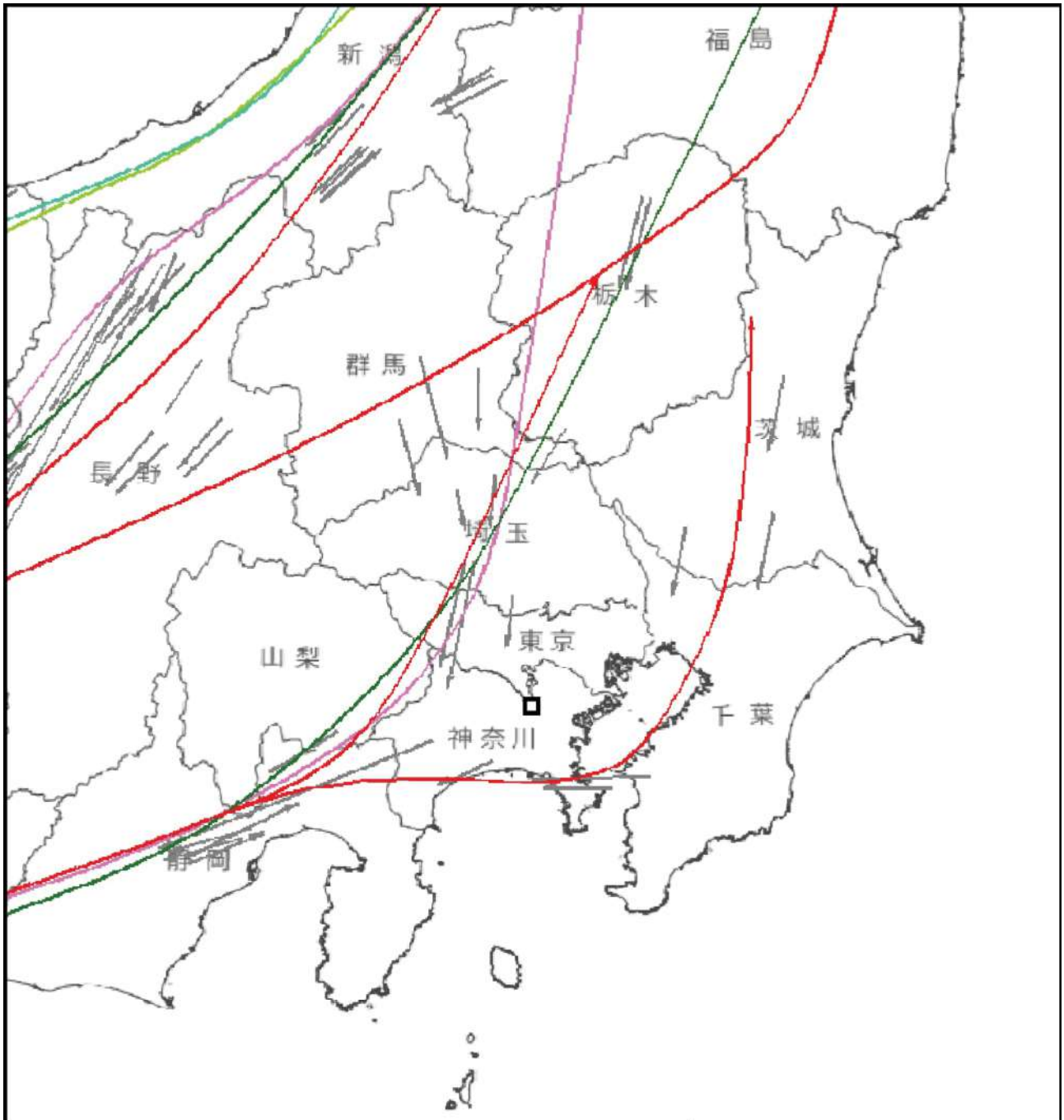
1:50,000

0 0.5 1 2 km

注1：クマタカ、オオワシ、オジロワシの生息分布や渡りをするタカ類集結地、ガン類・ハクチョウ類の主要な集結地は、図に示す範囲では確認されませんでした。

資料：「環境アセスメントデータベース (EADAS)」(環境省ホームページ 令和8年1月閲覧)

図 2-17 イヌワシ生息分布

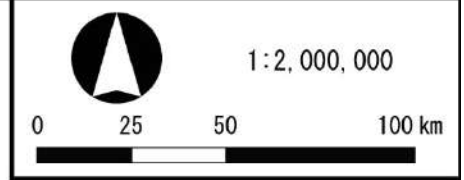


凡 例

調査区域

日中の渡りルート

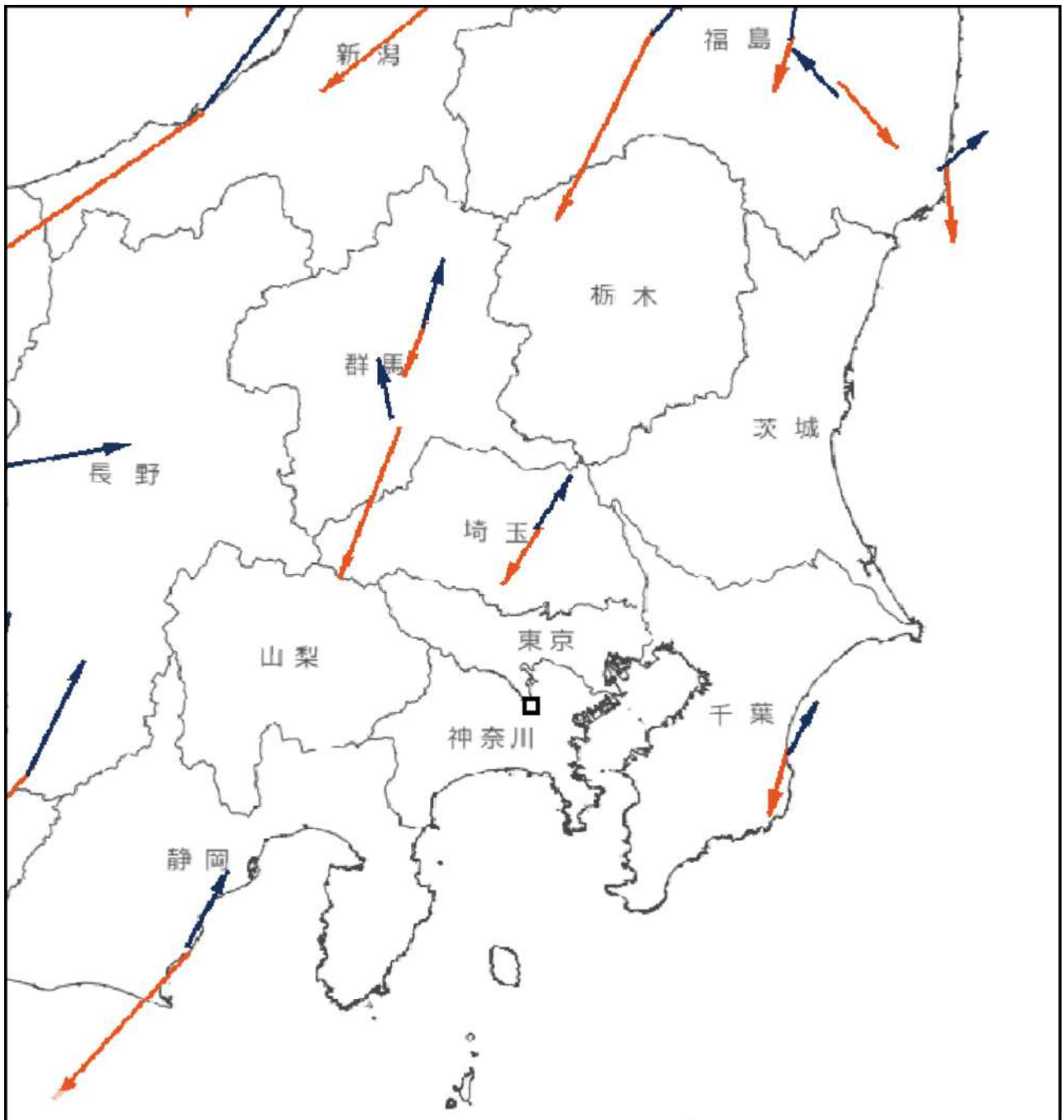
- ハクチョウ類
- ガン類
- サシバ
- ノスリ
- ハチクマ
- その他猛禽類



注1：オオハクチョウ、コハクチョウ、マガン、亜種オオヒシクイ、亜種ヒシクイ、ツル類、海ワシ類、アカハラダカの日中の渡りのルートは、図に示す範囲では確認されませんでした。

資料：「環境アセスメントデータベース（EADAS）」（環境省ホームページ 令和8年1月閲覧）

図 2-18 センシティブィティマップにおける日中の渡りルート



凡 例

調査区域

夜間の渡りルート

春季

秋季



1:2,000,000

0 25 50 100 km

資料：「環境アセスメントデータベース (EADAS)」 (環境省ホームページ 令和8年1月閲覧)

図 2-19 センシティブィマップにおける夜間の渡りルート

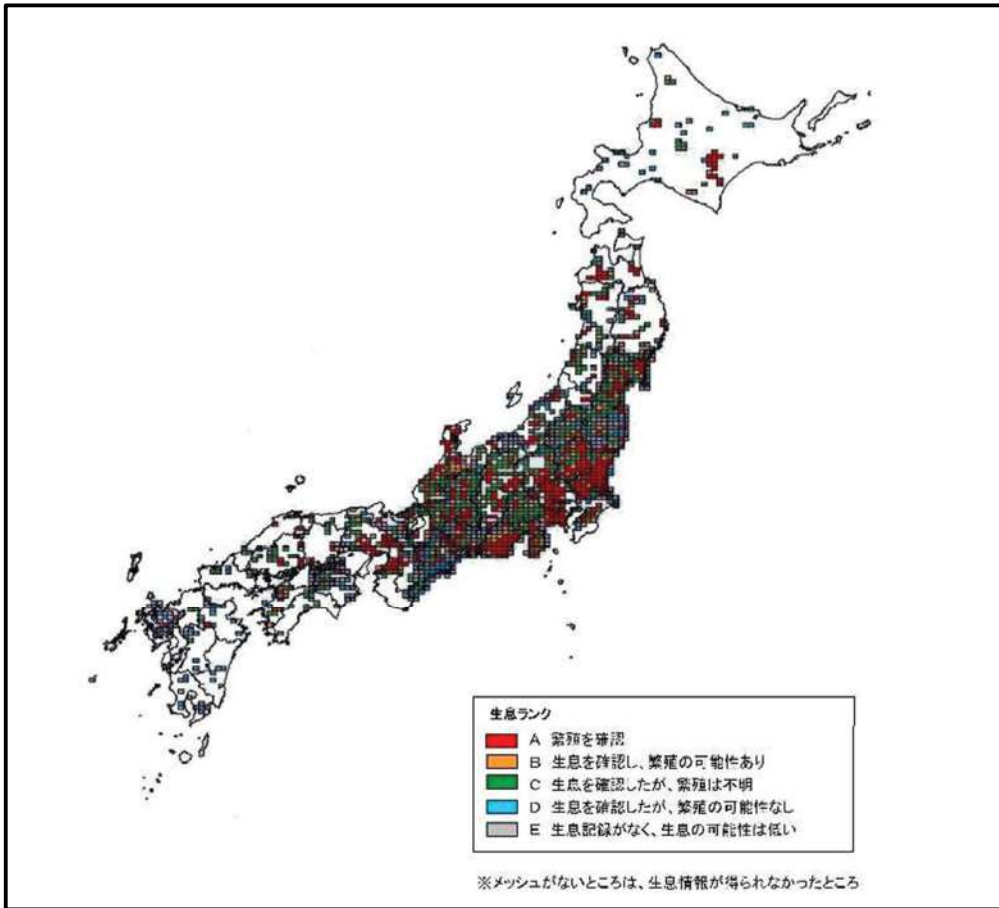


図 2-20(1) オオタカの生息分布

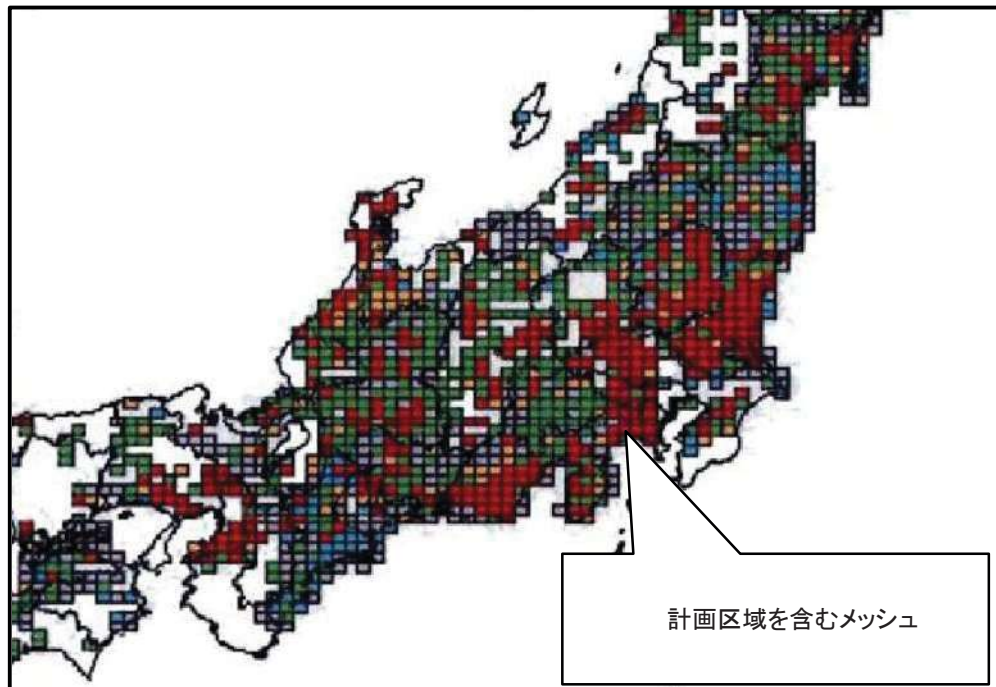


図 2-20(2) オオタカの生息分布（拡大図）

資料：「猛禽類保護の進め方」（改訂版）－特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについて－
（環境省 平成 24 年 12 月）

③ 動物の注目すべき生息地

動物の注目すべき生息地は、表 2-18 に示す法令や規制等の選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から選定しました。調査区域における動物の注目すべき生息地は表 2-19 及び図 2-21 に示すとおりです。

調査区域には、「ホタル生息確認地域」及び「トンボ池等主なエコアップスポット（点のビオトープ）」がみられ、計画区域には「ホタル生息確認地域」が存在しています。

なお、調査区域には、図 2-21 に示すとおり、環境省により「生物多様性保全上重要な里地里山」に指定されている地域が存在しており、計画区域の大部分が含まれています。計画区域内の「生物多様性保全上重要な里地里山」に指定されている地域は、土地区画整理事業実施区域内が大半であり、それらは、土地区画整理事業において改変され、農業振興地区、物流地区、観光・賑わい地区、防災・公園地区等に整備される計画です。新たに整備される防災・公園地区等では、図 2-22 に示すとおり、当該地域の保全対象種の生育・生息地として、適した環境を創出・保全することが計画されています。

表 2-18(1) 注目すべき生息地の選定基準

	選定基準	文献その他の資料	
①	「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月法律第 214 号）、「神奈川県文化財保護条例」（昭和 30 年 4 月神奈川県条例第 13 号）、「東京都文化財保護条例」（昭和 51 年 3 月東京都条例第 25 号）、「横浜市文化財保護条例」（昭和 62 年 12 月横浜市条例 53 号）、「大和市文化財保護条例」（昭和 38 年 10 月大和市条例第 25 号）及び「町田市文化財保護条例」（昭和 52 年 4 月町田市条例第 30 号）に基づく天然記念物	国特：特別天然記念物 天然：天然記念物 県天：神奈川県天然記念物 都天：東京都天然記念物 横浜天：横浜市天然記念物 大和天：大和市天然記念物 町田天：町田市天然記念物	「国指定文化財等データベース」（文化庁ホームページ 令和 8 年 1 月閲覧）ほか各自治体ホームページ
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月法律第 75 号）及び「絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律施行令」（平成 5 年 2 月政令第 17 号）に基づく生息地等保護区	生息：生息地等保護区	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」（平成 5 年 2 月政令第 17 号、令和 7 年 2 月 12 日施行）
③	「自然環境保全法」（昭和 47 年 6 月法律第 85 号）	原生：原生自然環境保全地域 自然：自然環境保全地域	「自然環境保全地域」（環境省ホームページ 令和 8 年 1 月閲覧）
④	「神奈川県自然環境等保全条例」（昭和 47 年 10 月神奈川県条例第 52 号）	県自然：神奈川県自然環境保全地域	「神奈川県自然環境保全地域の指定状況」（神奈川県ホームページ 令和 8 年 1 月閲覧）

表 2-18(2) 注目すべき生息地の選定基準

選定基準		文献その他の資料	
⑤	「東京における自然の保護と回復に関する条例」(平成12年12月東京都条例216号)	都自然：東京都自然環境保全地域 緑：緑地保全地域 歴：歴史環境保全地域 森：森林環境保全地域 里：里山保全地域	「保全地域の指定状況一覧」(東京都環境局ホームページ 令和8年1月閲覧)
⑥	「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(平成4年9月条約第7号)	自遺：自然遺産	「日本の世界自然遺産」(環境省ホームページ 令和8年1月閲覧)
⑦	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」(ラムサール条約)(昭和55年9月条約第28号)	基準1：「自然状態の」又は「自然状態に近い」代表的、希少又は特異な湿地タイプを含む湿地 基準2：危急種、絶滅危惧種又は近絶滅種、又は絶滅のおそれのある生態学的群集を支えている湿地 基準3：特定の生物地理区における生物多様性の維持に重要な動植物を支えている湿地 基準4：動植物種の生活環の重要な段階を支えている湿地。又は悪条件下において動植物種に避難場所を提供している湿地 基準5：2万羽以上の水鳥を定期的に支える湿地 基準6：水鳥の1種または1亜種の1個体群の個体数の1%以上を定期的に支えている湿地 基準7：湿地の恩恵や価値を代表する固有な魚類の亜種、種、又は科、生活史の諸段階、種間相互作用、個体群の相当な割合を支えており、それによって地球規模の生物多様性に貢献している湿地 基準8：採餌場、産卵場、稚魚の生育場、回遊路として湿地内外の魚類資源が依存している湿地 基準9：湿地に依存する、鳥類以外の動物の一種又は一亜種の1個体群の個体数の1%を定期的に支えている湿地	「ラムサール条約と条約湿地」(環境省ホームページ 令和8年1月閲覧)
⑧	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(平成14年7月法律第88号)	国指定鳥獣保護区 都道府県指定鳥獣保護区 保：鳥獣保護区 特：特別保護地区 特指：特別保護指定区域	「令和7年度神奈川県鳥獣保護区等位置図」(神奈川県ホームページ 令和8年1月閲覧)及び「令和7年度東京都鳥獣保護区等位置図」(東京都ホームページ 令和8年1月閲覧)
⑨	「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」(環境省 平成28年4月)	基準1：湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・マングローブ林、藻場、サンゴ礁のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合 基準2：希少種、固有種等が生育・生息している場合 基準3：多様な生物相を有している場合 基準4：特定の種の個体群のうち、相当な割合の個体数が生育・生息する場合 基準5：生物の生活史の中で不可欠な地域(採餌場、産卵場等)である場合	「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」(環境省ホームページ 令和8年1月閲覧)

表 2-18(3) 注目すべき生息地の選定基準

選定基準		文献その他の資料
⑩	「重要野鳥生息地 (IBA)」 (日本野鳥の会ホームページ 令和 8 年 1 月閲覧)	<p>A1 : 世界的に絶滅が危惧される種、または全世界で保護の必要がある種が、定期的・恒常的に多数生息している生息地</p> <p>A2 : 生息地域限定種 (Restricted-range species) が相当数生息するか、生息している可能性がある生息地</p> <p>A3 : ある 1 種の鳥類の分布域すべてもしくは大半が 1 つのバイオーム*に含まれている場合、そのような特徴をもつ鳥類複数種が混在して生息する生息地、もしくはその可能性がある生息地</p> <p>※バイオーム : それぞれの環境に生きている生物全体</p> <p>A4 i : 群れを作る水鳥の生物地理的個体群の 1 % 以上が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト</p> <p>A4 ii : 群れを作る海鳥または陸鳥の世界の個体数の 1 % 以上が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト</p> <p>A4 iii : 1 種以上で 2 万羽以上の水鳥、または 1 万つがい以上の海鳥が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト</p> <p>A4 iv : 渡りの隘路にあたる場所で、定められた閾値を超える渡り鳥が定期的に利用するボトルネックサイト</p>
⑪	「生物多様性の保全の鍵になる重要な地域 (KBA)」 (コンサベーション・インターナショナル・ジャパンホームページ 令和 8 年 1 月閲覧)	<p>危機性 : IUCN のレッドリストの地域絶滅危惧種 (CR、EN、VU) に分類された種が生息/生育する</p> <p>非代替性 : a) 限られた範囲にのみ分布している種 (RR)、b) 広い範囲に分布するが特定の場所に集中している種、c) 世界的にみて個体が一時的に集中する重要な場所、d) 世界的にみて顕著な個体の繁殖地、e) バイオリージョンに限定される種群</p>
⑫	「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」 (横浜市環境保全局環境影響審査課 平成 13 年 3 月)	<p>「Key Biodiversity Area ~私たちが残したい未来の自然~」 (コンサベーション・インターナショナル・ジャパンホームページ 令和 8 年 1 月閲覧)</p> <p>「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」 (横浜市環境保全局環境影響審査課 平成 13 年 3 月)</p>

表 2-19 動物の注目すべき生息地

選定基準	区分
⑫ 「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」	ホタル生息確認地域
	トンボ池等主なエコアップスポット (点のビオトープ)

資料 : 「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」 (横浜市環境保全局環境影響審査課 平成 13 年 3 月)

計画区域及びその周辺の自然環境について、動物の注目すべき生息地を含む重要な自然環境のまとまりの場を抽出しました。抽出された重要な自然環境のまとまりの場は表 2-20 及び図 2-21 のとおりです。

表 2-20 重要な自然環境のまとまりの場

No.	重要な自然環境のまとまりの場		抽出理由
1	自然植生	植生自然度9（シラカシ群集）	環境省植生図におけるシラカシ群集に該当する植生です。
2	特別緑地 保全地区	本郷三丁目特別緑地保全地区	「都市緑地法」（昭和48年9月法律第72号）第12条第1項の規定により指定された特別緑地保全地区の区域です。
3		上川井町大貫谷特別緑地保全地区	
4		上川井町堀谷特別緑地保全地区	
5		上川井町中田谷特別緑地保全地区	
6		上川井町堂谷特別緑地保全地区	
7		川井本町特別緑地保全地区	
8		上川井町露木谷特別緑地保全地区	
9		追分特別緑地保全地区	
10		三保特別緑地保全地区	
11		生物多様性 保全上重要な 里地里山	
12	ホテル生息確認地域		1983年に横浜市公害研究所（現環境科学研究所）で行ったホテル分布調査に基づき、その後生息が確認された地域です。
13	トンボ池等主なエコアップスポット (点のビオトープ)		「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」（横浜市環境保全局環境影響審査課 平成13年3月改定）において示されているトンボ池や生き物サンクチュアリ等、生物の生息に配慮して整備したり改修した池・遊水地・せせらぎ等の小規模なビオトープです。
14	湧水	－（旭区上川井町 2053 付近）	「（仮称）旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業 環境影響評価方法書」（横浜市 令和2年7月）及び「横浜市内の湧水特性」（加藤良明、下村光一郎、飯塚貞男 平成20年3月）において示されている調査区域内の湧水の分布状況です。
15		瀬谷市民の森1（和泉川周辺の窪地）（瀬谷区瀬谷町）	
16		瀬谷市民の森2（和泉川周辺の窪地）（瀬谷区瀬谷町）	
17		－（旭区笹野台）	
18	緑の 10大拠点	川井・矢指・上瀬谷地区	「横浜市水と緑の基本計画（平成28年6月改定）」（横浜市ホームページ 令和8年1月閲覧）において「緑の10大拠点」として位置づけられている、横浜市内を流れる河川の源・上流域、中流域の、まとまりのある樹林地や農地、湧水や水辺等多様な自然や里山景観が残されている、生き物の生育・生息環境としても重要である地域です。
19		三保・新治地区	

注1：表中の No. は図 2-21 に対応しています。

資料：「都市緑化データベース」（国土交通省ホームページ 令和8年1月閲覧）

「第6回～第7回自然環境保全基礎調査」（環境省 自然環境局 生物多様性センターホームページ 令和8年1月閲覧）

「特別緑地保全地区指定一覧（区順）（令和7年9月12日）」（横浜市ホームページ 令和8年1月閲覧）

「生物多様性保全上重要な里地里山」（環境省ホームページ 令和8年1月閲覧）

「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」（横浜市環境保全局環境影響審査課 平成13年3月）

「（仮称）旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業 環境影響評価方法書」（横浜市 令和2年7月）

「横浜市内の湧水特性」（加藤良明、下村光一郎、飯塚貞男 平成20年3月）

「横浜市水と緑の基本計画」（横浜市環境創造局 平成28年6月改定）

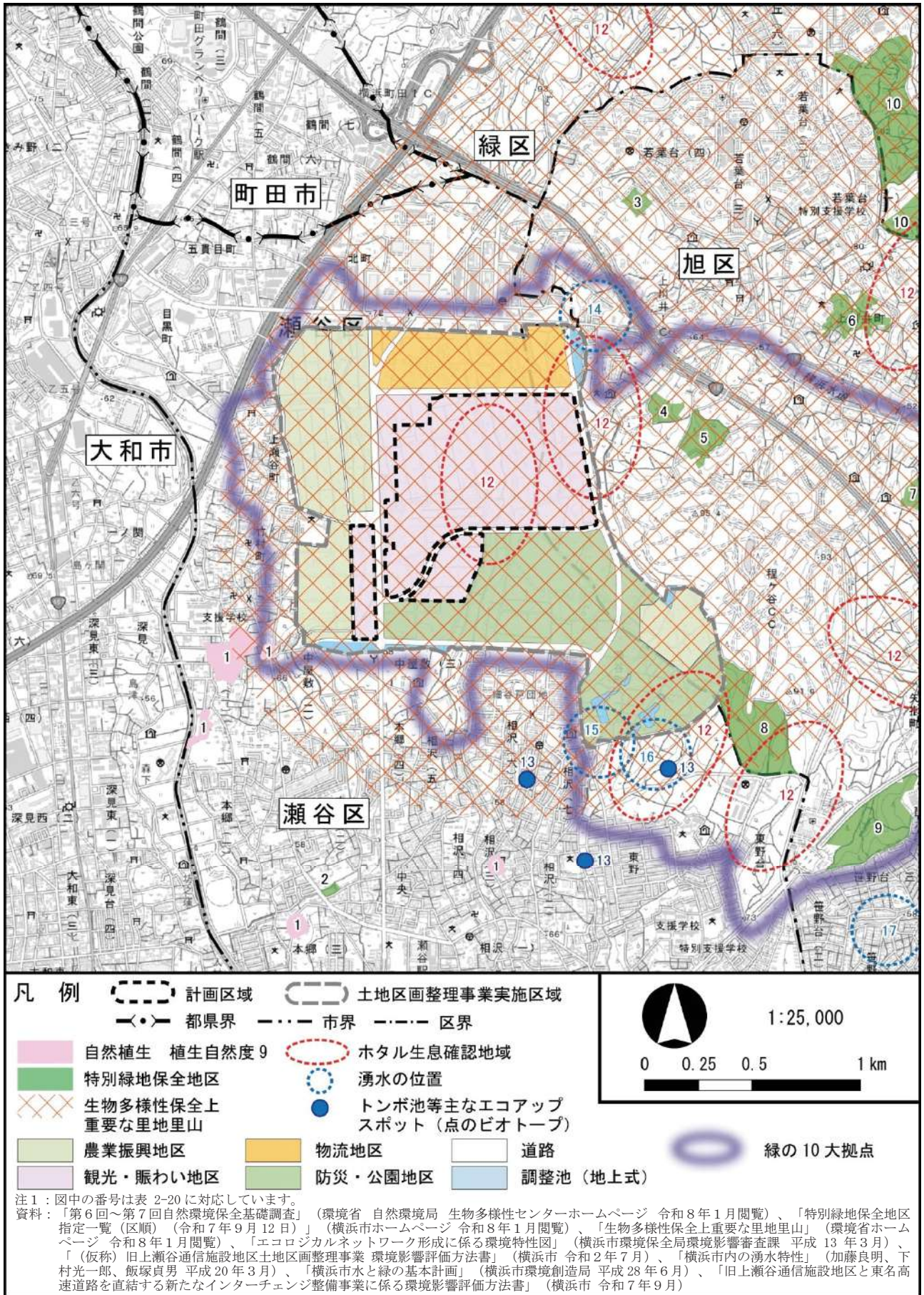
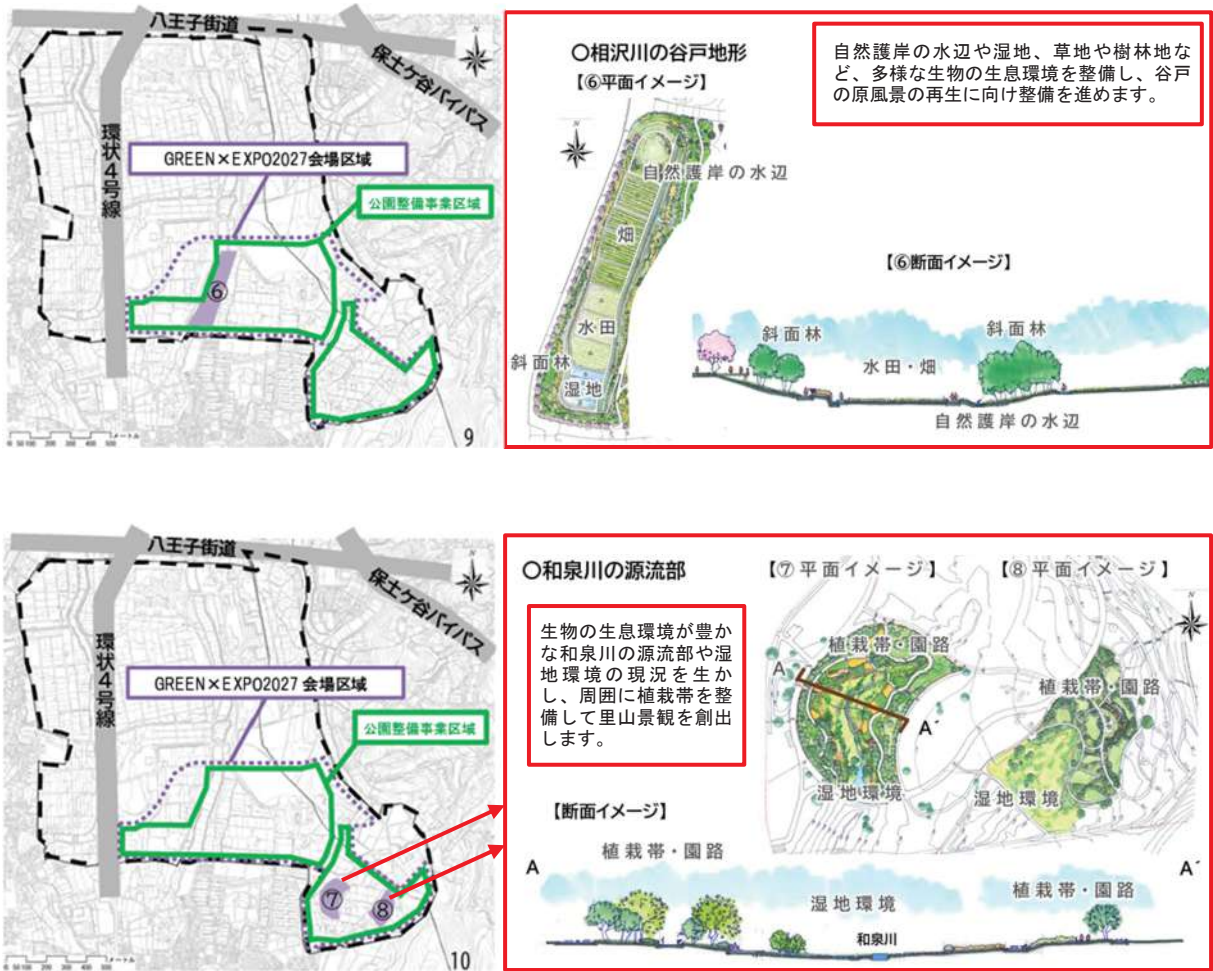


図 2-21 動物の注目すべき生息地及び重要な自然環境のままとりの場（区画整理事業実施前）



資料：「旧上瀬谷通信施設における基盤整備等の状況について」（横浜市 令和6年9月）より作成
 図 2-22 土地区画整理事業において動植物の生息・生育環境が整備・創出される範囲

(3) 農地・森林の分布等

調査対象地域における自然的土地利用状況は、表 2-21 及び図 2-23 に示すとおりです。

農地は、計画区域が位置する瀬谷区及び旭区にそれぞれ 270ha、252ha が存在し、計画区域内及び周辺には、比較的大規模な農地が分布しています。大和市の農地は 200ha、町田市の農地は 459ha 存在しています。また、計画区域及びその周辺の農業振興地域、農用地区域、農業専用地区及び生産緑地地区は、図 2-26 (p.2-73) 及び表 2-29 (p.2-75) に示すとおりです。

森林(山林)は、瀬谷区及び旭区にそれぞれ 97ha、303ha が存在し、計画区域内及び周辺に分布しています。大和市は平坦地山林と傾斜地山林を合わせて 85.3ha、町田市の森林は 1,267.2ha 存在しています。また、森林地域及び地域森林計画対象民有林は図 2-27 (p.2-74) に示すとおりです。

表 2-21(1) 自然的土地利用状況(横浜市)

項目	面積 (ha)			
	横浜市			
	全域	瀬谷区	旭区	緑区
農地	2,897	270	252	318
山林	3,271	97	303	362
河川・水路・水面	517	12	27	27
荒地・海浜・法面等	887	44	79	79

注1：■は、計画区域のある行政区分

資料：「横浜市土地利用のあらまし 令和元・2年度」

(横浜市建築局企画部都市計画課 令和5年4月)

表 2-21(2) 自然的土地利用状況(大和市)

項目	面積 (ha)
田	9.4
畑	188.3
耕作放棄地	2.3
農地小計	200.0
平坦地山林	46.5
傾斜地山林	38.8
河川、水面、水路	17.2
荒地、海浜、河川敷	23.3

注1：令和2年度の値

資料：「神奈川県都市整備統計年報2024(令和6年度)」

(神奈川県県土整備局都市部都市計画課 令和7年3月)

表 2-21(3) 自然的土地利用状況(町田市)

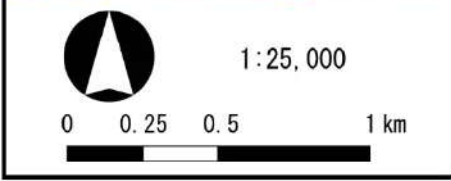
項目	面積 (ha)
農用地	459.0
水面・河川・水路	72.8
森林	1,267.2
原野	205.4

資料：「東京の土地利用(令和4年多摩・島しょ地)」(東京都都市整備局都市づくり政策部土地利用計画課 令和6年3月)



凡例

- 計画区域
 土地区画整理事業実施区域
- 都県界
 市界
 区界
 行政界
(県界・市界・区界)
- 農地
 荒地・海浜・法面等
- 山林
 道路用地
- 河川・水路・水面
 その他



資料：「横浜市土地利用のあらまし 令和元・2年度」（横浜市建築局企画部都市計画課 令和5年4月）
 「農地の区画情報（筆ポリゴン）」（農林水産省 令和8年1月閲覧）

図 2-23 自然的土地利用状況